公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年7月1日発行（毎月1回1日発行）通巻552号

ハンドボール

6·7
JUN. JUL. 2015 No.552

特集
第10回 春の全国中学生選手権大会
第12回 東アジアクラブ選手権
第5回 全日本社会人選手権大会





［表紙写真］第10回春の全国中学生選手権大会　男子優勝・西條中の安平光佑選手（左）、女子優勝・明倫中の酒井優貴子選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/


ANA





会期：平成 27 年 3 月 26 日（木）～ 3 月 29 日（日）
会場：氷見市ふれあいスポーツセンター
　　　富山県立氷見高等学校第一体育館
　　　氷見市立南部中学校体育館

平成 26 年度
第 10 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

最終順位

【男子】
優　勝：氷見市立西條中学校（富山県）
準優勝：氷見市立北部中学校（開催地）
3　位：菰野町立菰野中学校（三重県）
　　　　岩国市立平田中学校（山口県）

【女子】
優　勝：福井市明倫中学校（福井県）
準優勝：氷見市立西條中学校（開催地）
3　位：浦添市立港川中学校（沖縄県）
　　　　東久留米市立西中学校（東京都）





4点共：写真提供・スポーツイベント社

第10回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を振り返り

氷見市実行委員会事務局次長　飯山　進



青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを目的として平成17年度からスタートした本大会も今年で10回目を迎えました。当初は、手探り状態でスタートしましたが全国の中学生ハンドボーラーや指導者、関係各位のお陰様で「春は、氷見へ」と目標とされ認められる成熟した大会となりました。第2回では、大会途中での能登半島地震の影響で選手達に少しは動揺もありましたが、最終日まで運営をする事が出来ました。また、第6回大会では直前まで準備を進めていましたが、2011年3月11日の東日本大震災により止むを得なく中止となりました。この10年間の思い出は尽きませんが、何よりも本大会の主旨である"スポーツの振興"として全国の中学生の競技力が確実にレベルアップしていること、"地域の再生"として「ハンドボールの聖地」と市民から声が上がるほど氷見市の春の風物詩となってきたことが実行委員会としてうれしく感じております。

本大会は、一般財団法人地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり推進事業」の支援を受け10年間行われるという目標でしたが、第11回大会以降の継続開催について昨年度、日本ハンドボール協会、日本中学校体育連盟ハンドボール専門部、氷見市など、関係者と協議した結果、第15回大会までの氷見市での継続開催が決定しております。財政面等の課題はありますが、引き続き一般財団法人地域活性化センターの「スポーツ拠点づくり自立促進事業」の支援を受けられることや、全国のハンドボール愛好者より「クラウドファンディング」で資金募集も行い、全国よりたくさんの方々にご寄付いただくなど課題も克服できる目途もついたことから、第11回以降の大会も更に充実した魅力ある中学生のあこがれる大会へと前進したいと考えています。

今年度の大会は、第10回を記念し記念枠として地元富山県協会が推薦するチームも出場し、46都道府県より男子48チーム（開催地、記念枠、新潟県不出場）女子46チーム（開催地、記念枠、青森県、新潟県、島根県不出場）男女計94チームが参加し熱戦を繰り広げました。開会式前のアトラクションでは、大崎電気所属宮崎選手の模範演技や2019年の世界女子ハンドボール選手権大会のPRにくまモンがサプライズ出演するなど大会ムードが一気に盛り上がりました。引き続き行われた開会式では、多くのご来賓の方々にご出席賜り、選手達に温かい励ましの言葉をいただきました。



競技は、氷見市ふれあいスポーツセンターをメイン会場に富山県立氷見高校と氷見市立南部中学校の3会場で熱戦が繰り広げられました。本大会の大きな特色でもある地域応援サポーターも、全国から訪れる人々を温かく迎え、また、選手が安心してプレーが出来るよう、市内各地区から協力をいただき、チームや保護者とのさまざまな交流を図りました。中学生の奮闘を応援するサポーターもひとつひとつのプレーに一喜一憂し、感動を分かち合っていました。

大会の結果、女子の部は、地元の開催地代表氷見市立西條中学校が沖縄県代表の港川中学校との激戦を勝ち上がり決勝へ進出したものの、決勝戦では地力に勝る福井県代表の明倫中学校が終始リードする展開で明倫中学校が初優勝となりました。男子では、富山県代表の氷見市立西條中学校と開催地代表の氷見市立北部中学校の地元対決となり、会場は地元の応援団や観客で立ち見が出るほどの熱気につつまれる中、昨年準優勝で悔しい思いをした西條中学校の攻撃力が上回り念願の初優勝を成し遂げました。1回戦から決勝戦まで大接戦が繰り広げられ会場は大いに盛り上がりました。

最後になりますが、全国のハンドボール関係者の皆さんには、10年間のご支援に感謝申し上げるとともに、これからも引き続き未来あふれる中学生ハンドボーラーに素晴らしい環境を整え、この大会を更にパワーアップ出来るよう一層のご支援ご協力お願い申し上げます。



男子優勝 氷見市立西條中学校（富山県）

西條中学校男子ハンドボール部部長　姿　豊春

氷見市でのこの大会が開催されて10周年の節目の年に、市民が待ち望んでいた優勝をすることができ、うれしく思います。

本校は一昨年3位、昨年2位と毎年順位を上げていきました。それゆえ、「今年は優勝を」という市民の期待は、私たち指導者には大きなプレッシャーでした。

今年のチームは窪小学校で全国2位になった安平、清水、砂山、林、杉本の5名にサッカーをしていた田上と、ハンドボールをしたいと新潟から西條中に入学してきた窪田の2年生7名と1年生10名の17名です。

1回戦は関東ナンバーワンの呼び名が高い茨城の手代木中学校、2回戦は身体が大きく得点能力の高い高知の介良中学校。3回戦は試合巧者の北海道光成中学校、準々決勝はガッツがあり懸命にプレーする大阪の豊中第一中学校、準決勝はスピードと技術に優れた三重の菰野中学校と対戦しました。そして、決勝は地元氷見の北部中学校です。何度も練習試合や公式戦を行い、全てを知り尽くしたチームです。対戦成績が良い分､勝って当たり前の雰囲気が一番嫌でした。しかし、試合が始まり、最初は一進一退でしたが前半中盤に3点差がついてからは、一気に西條ペースで試合を進め、勝利することができました。

選手には楽しんでプレーすること、観客を「アッ」と言わせるプレーをしてほしいと言ってきました。今回、それを実行でき、大変うれしく思います。試合を見た人たちから「西條の試合おもしろかった」と言われることが一番の喜びでした。

最後になりましたが、ご支援いただいた氷見市民の皆様、県及び市のハンドボール協会、市体育協会、市役所、中体連、高体連、その他関係機関の方々、保護者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

安平 光佑主将

今まで練習などでつらい時や苦しいこともありましたが、地元の全国大会で優勝できてうれしいです。4日間続けての試合で足に負担がきていたけれども、みんなが一丸となって西條らしいプレーができてよかったです。今後は､夏の全中、冬のJOCと3冠を目指してがんばりたいです。

窪田 礼央選手

去年果たせなかった日本一が達成できてうれしいです。試合中は、とにかく点数をとることを考えてプレーしたおかげで、だんだんシュートが入るようになりました。これからも3冠を目指してシュート練習に取り組みます。

田上 正徳選手

地元開催の全国大会で地元対決の決勝戦ができてうれしく思います。



写真提供・スポーツイベント社

女子優勝　福井市明倫中学校（福井県）

明倫中学校女子ハンドボール部主将　**酒井優貴子**

春中を振り返って

平成27年3月15日、春の全国大会の開会式が始まりました。その時私の頭の中には「優勝」という言葉はありませんでした。糸先生とチームのみんなで練習してきたことを出し切り、チームのみんなで決めたことを絶対やろうと思っていました。それは、アップの時からしっかり全員で声を出し、自分達のムードを作ることです。さらに試合の攻撃の場面では必ずシュートで終わることです。アップの時は今まで聞いたことのないぐらい大きな声を全員が出し、志気が高まりました。

試合では積極的にシュートを狙うことで相手の速攻を減らすことができました。DFでは自分達から仕掛け相手のミスを誘い、速攻に繋げていくという私たちのやりたいことができました。試合途中、集中力が切れてしまった時もあったけど、勝ち進んでいくごとにしっかり修正することができました。

一番苦しかった準決勝の東久留米戦では、ハーフタイムの時に糸先生から、「いつも通りやれば大丈夫！」という言葉をかけてもらい、落ち着きを取り戻しました。とにかくこれまで練習してきたことをやってみよう、という気持ちになりました。試合を重ねるたびに、次はどんなことをしてみようかな、どこまで通用するのかな、など色々な思いが出てきました。本当にワクワクした、夢のような4日間でした。

決勝戦の西條との試合では、選手全員が試合に出ることができました。3年生全員がシュートを決め、みんながとても楽しそうで自分自身も楽しむことができました。

優勝が決まった瞬間は喜びより驚きの方が大きくて、正直実感があまりありませんでした。その後、たくさんの人からお祝いの言葉を頂き、だんだん実感がわいてきました。と同時に、本当にたくさんの方に支えてもらったんだなと思いました。感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし、改めて振り返ってみるといいことばかりではありませんでした。4日間でたくさんの失敗をしました。他のチームには、プレーはもちろん、礼儀やマナーなど見習うべき点がたくさんありました。今回見つけた自分達に足りない、たくさんのことを夏までにひとつずつ減らしていきます。練習では声の大きさや、やる時と抜く時の切り替えなどまだまだ自分に甘いです。夏に勝つにはもっと全員が変わる必要があると思います。それを気づかせてくれた今大会に感謝します。



写真提供・スポーツイベント社

戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評

男子

■準決勝

氷見西條　31（12－9、19－12）21　菰野

菰野のスローオフで始まった準決勝。4番早野のロングシュートで菰野が先制点を決める。西條は菰野の4-2DFの前にミスが続きなかなかリズムに乗れず、前半は一進一退の展開が続く。前半序盤菰野の速攻展開で8番内田、2番金津が得点を重ねるが、16分西條が13番安平のフリースローからのステップシュートでリードを奪うと4番砂山、6番杉本、7番清水の3連続得点でリードを広げる。リズムを掴んだ西條が12対9の3点リードで前半を折り返す。

後半西條はスピードと高さを活かし、菰野の4-2DFを崩しにかかるが、菰野もセンター4番早野、7番矢倉の速攻で粘る。しかし攻撃の足が止まりはじめミスが続き、後半12分から西條が着実にシュートを決め7連続得点。菰野も8番内田のサイドシュート、7番矢倉の速攻で果敢にシュートを狙うが、中盤西條の連続得点が響き点差を縮めることができず、最後は西條のコンビプレーが決まり2年連続の決勝進出を決める。



氷見北部　26（14－8、12－14）22　平田

昨年に続き2度目の優勝を狙う平田と初優勝を狙う地元氷見北部の一戦は平田のスローオフでスタート。氷見北部は3-2-1DFで相手のミスを誘い、速攻で得点を重ね前半序盤で4連続得点を重ねる。平田もDFからの速攻展開で得点を狙うが、氷見北部GK西田の好セーブにより中々得点を取ることが出来ずに苦しい展開となる。しかし中盤では5番杉山のサイドシュート、4番森山・3番林のロングシュートで得点を重ねる。両GKの好セーブで激しい攻防戦が展開されたが、その後氷見北部2番端のカットインシュートや平田3番林のロングシュートで両者得点を重ね、14対8と氷見北部リードで前半を折り返す。



後半に入ってからは平田の4-2DFが光り持ち味の速攻を仕掛けるが、またもGK西田の好セーブで得点を重ねることができず、氷見北部はそのチャンスで確実に点数を重ねた。平田は7番末岡のスピード感あるプレーで攻めのリズムを掴み果敢にシュートを狙いにいき速攻でも得点を重ねるが、氷見北部2番端、14番大井が相手のミスを確実に得点に結びつけ最後まで自分たちのペースを崩すことなく26対22でタイムアップ。氷見北部が初の決勝進出を決めた。

■決勝

氷見西條　33（16－6、17－18）24　氷見北部

どちらが勝っても地元氷見勢初優勝となる決勝戦は、西條のスローオフで前半がスタート。お互いのことをよく知る両チーム。前半2分、7番朝野のサイドシュートで氷見北部が先制。前半9分まで3対3の同点。前半11分、西條が7番清水の速攻を皮切りに、4番砂山、9番窪田、13番安平などのシュートで5連続得点。前半15分、氷見北部がたまらずタイムアウト。しかし、西條のリズムを変えることはできず、8連続失点。氷見北部は、2番端のミドルシュート、7番朝野のサイドシュート等で、ゴールを果敢に狙いにいくが、西條の堅守、12番GK田上の好セーブに阻まれ、なかなか得点をすることができない。終始西條のペースで、前半を16対6で折り返した。



流れを変えたい氷見北部。後半出だし、9番坂、14番大井、2番端のシュートで3連取する。しかし、西條13番安平を軸とした巧みなパスワーク、7番清水、9番窪田の豪快なロングシュート、スピードあるカットインプレーを、なかなか防ぎきることができない。氷見北部は、クロスやポストを利用し、攻撃のリズムを変えて応戦するが、西條の勢いを止めることはできず、33対24でタイムアップ。第10回大会において、西條が地元氷見勢初の優勝を飾った。



4点共：写真提供・スポーツイベント社

戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評 戦評

女　子

■準決勝

氷見西條 26(11−14、10−7、3−3、2−1)25 港川



開始15秒、西條が8番松本のサイドシュートで先制するも、40秒には港川15番池間がサイドシュートで応酬。港川は5分過ぎから5番伊良部らの速攻で一気に4連取し、6対3とリードする。西條は1番堀川が連続好セーブをみせるも、港川は10番銘苅の速攻、7番真境名のサイドシュートなどで徐々に得点を重ねる。西條も前半終盤、5番坂下、3番西田らの速攻で追い上げるが、港川が14対11の3点リードで前半を折り返した。

後半に入っても、緊迫した展開は続く。両チームとも3-2-1DFで守り、速攻やサイド攻撃で得点するという持ち味を活かし、どちらも連続得点を許さない。しかし、西條は19分過ぎから5番坂下、7番喜多の3連続得点でついに21対21の同点に追いつく。さらに、終了30秒前に勝ち越しのシュートを狙うが、港川12番松岡の好セーブで、勝負は延長にもつれ込む。

延長もお互いの攻防は続く。西條は7番喜多、4番川西らの速攻などで得点、港川は3番伊波のミドルシュートで対抗したが、26対25でわずかに1点上回った西條が、決勝進出を決めた。

明倫　29（13－12、16－14）26　東久留米西

東久留米西のスローオフで始まった女子準決勝。明倫は3番久保のフェイントからのカットインシュートに続いて、8番横山のポストシュート、11番竹内のパスカットからの速攻で3連続得点。東久留米西は速攻を中心にゴールを狙うが、明倫DFの早い戻りに攻めあぐんだ。その後、東久留米西2番瀧村のステップシュートや6番三橋のカットインシュート、8番土肥のサイドシュート、明倫3番久保のミドルシュートや6番河原のサイドシュートなどで点を取り合った。19分過ぎには明倫が5点差でリードしたが、東久留米西は持ち味の速さを生かし、3番村井、5番大矢、6番三橋の速攻で4連続得点し、前半は13対12で折り返した。



後半に入り、明倫の連携のとれた3-2-1DF、東久留米西の速攻を中心とした速いOFが機能し始め、1点を取り合う目を離せないゲーム展開となった。10分過ぎに明倫2番酒井のカットインシュートから4連続得点し、19分過ぎには明倫が7点差でリード。東久留米西は明倫2番酒井、3番久保にダブルマンツーをかけ追撃にでるが、明倫1番GK橋本の好セーブに阻まれ、追いつくことができず、29対26で明倫の勝利となった。東久留米西2番瀧村は10得点を上げる活躍をした。両チームともに最後まで足の動きを止めることなく、それぞれのチームの持ち味を十分に発揮した好ゲームであった。

■決勝

明倫　32（16－7、16－13）20　氷見西條

初の北信越対決となった女子決勝は、明倫のスローオフでスタート。西條のミスを明倫が速攻につなげ、先取点を挙げる。コンパクトに守る西條の3-2-1DFの間を明倫の2番酒井が力強いカットインでこじ開けていく。西條DFが寄ったところで、明倫はサイドにとばしのパスを多用し、確率の高いサイドシュートにつなげ、得点を量産していった。西條は、5番坂下の速攻、3番西田のサイドシュートなどで喰らいつき、得意の速攻でリズムを掴みたかったが、明倫の速攻の戻りが早く、なかなか得点に結び付けることができなかった。明倫の勢いは止まらず、16対7の明倫リードで前半を折り返した。



後半の立ち上がり、西條は5番坂下のサイドシュートとカットインで2連取し、リズムを作るかに見えた。明倫は、失点の後に焦ることなく、2番酒井のカットイン、4番林のサイドシュート、8番横山のポストシュートなどで確実に加点し、差を詰めさせなかった。最後まで落ち着いた試合運びで、バランスのよい多彩な攻撃を見せた明倫が福井県勢初の春中のクイーンに輝いた。敗れた西條も、最後まであきらめず走り続けた姿が印象的であった。



4点共：写真提供・スポーツイベント社

第12回
東アジアハンドボールクラブ選手権

■大会期間：2015年4月16日（木）～19日（日）
■会場：別府市総合体育館べっぷアリーナ（大分県）
■参加チーム：男子（4チーム）
大同特殊鋼、大崎電気（日本）、コロサ（韓国）、山東（中国）
女子（4チーム）
北國銀行、オムロン（日本）、仁川（韓国）、江蘇（中国）
■試合方式：1回戦総当りのリーグ戦方式

星取表

【男子】

順位		コロ	大崎	大同	山東	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	コロサ（韓国）		28 ○ 26	31 ○ 26	36 ○ 24	3	3	0	0	95	76	19	6
2	大崎電気（日本）	26 ● 28		25 ○ 21	49 ○ 23	3	2	0	1	100	72	28	4
3	大同特殊鋼（日本）	26 ● 31	21 ● 25		34 ○ 25	3	1	0	2	81	81	0	2
4	山　東（中国）	24 ● 36	23 ● 49	25 ● 34		3	0	0	3	72	119	-47	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

【女子】

順位		仁川	北國	オム	江蘇	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	仁　川（韓国）		29 ○ 28	34 ○ 26	44 ○ 19	3	3	0	0	107	73	34	6
2	北國銀行（日本）	28 ● 29		22 ○ 20	34 ○ 18	3	2	0	1	84	67	17	4
3	オムロン（日本）	26 ● 34	20 ● 22		35 ○ 22	3	1	0	2	81	78	3	2
4	江　蘇（中国）	19 ● 44	18 ● 34	22 ● 35		3	0	0	3	59	113	-54	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

表　彰

表彰項目	男子	女子
最優秀選手賞(MVP)	No.13 Lee Hyeonsik（コロサ）	No.9 Kim Ona（仁川）
ベストセブン	No.99 Lee Changwoo（コロサ）	No.16 Song Miyoung（仁川）
	No.8 Park Junggeu（コロサ）	No.11 Ryu Eunhee（仁川）
	No.24 Paek Wonchul（コロサ）	No.19 Shin Eunjoo（仁川）
	No.7 Jung Suyoung（コロサ）	No.9 横嶋 かおる（北國銀行）
	No.24 信太 弘樹（大崎電気）	No.13 横嶋 彩（北國銀行）
	No.3 野村 喜亮（大同特殊鋼）	No.2 澤田 智美（オムロン）
	No.9 Zhao Xin（山東）	No.9 Mo Mengmeng（江蘇）
最優秀監督賞	Kim Unhak（コロサ）	Cho Hanjoon（仁川）
最優秀レフェリー賞	Lee Hyongchul、Seo Jiyoul（韓国）	

総　評

日本ハンドボールリーグ機構GM　家永 昌樹

4月16日～19日まで大分県別府市「べっぷアリーナ」にて、日本、韓国、中国の男女それぞれの国内トップチームが参加し、第12回東アジアハンドボールクラブ選手権が開催されました。

今回も、開催地を全国に公募をさせていただき、今回は2回目の公募ということもあり多くの県協会の皆様より開催希望の手をあげていただきました。最終的に、会場規模、立地条件、県協会の体制、集客能力、行政との連携等々をリーグ機構で慎重に協議を重ね、最終的に日本協会常務理事会の決定により、大分県別府市に決めさせていただきました。準備段階から、大分県、別府市、大分県協会の皆様の大会成功に向けての協力体制が整っており、事前打ち合わせ等でもその準備の速さに大変助けていただきました。

また、2月11日に行われました、日本リーグ別府大会をリハーサル大会と位置付けられ、行政、会場、県協会が一体となり運営され、運営、競技両面での準備状況を確認され大会本番に臨んでいただきました。おかげで大会期間中は大きなトラブルもなく成功裏に大会を終えることができました。

別府市のご協力で、地元小学生、中学生、高校生にハンドボールを見ていただこうと企画し、初日には700人を超える学生さんに迫力のあるプレーを見ていただき、初めてみる迫力のあるプレーに興奮されていました。

試合日程で、17日の金曜日を休息日にし、外国チームには観光に行っていただきましたが、地元別府市出身の大同特殊鋼・末松監督、大分県出身の大同特殊鋼・久保選手、大崎電気・宮﨑選手、オムロン・藤間選手始め、多くの選手に午前午後別府の小学校2校へ訪問いただき、小学生にハンドボールの体験授業を行いました。その甲斐もあってか土曜日、日曜日は多くの小学生の姿が会場で見られました。これを期に別府市でもハンドボールが広がり、小学生チームの誕生に繋がってくれれば幸いです。

試合は、男女とも韓国の優勝でしたが、韓国の試合運びの安定、強さ、中国の成長が目立ちました。日本チームも大同特殊鋼、大崎電気、北國銀行、オムロンも日本の代表チームとして十分力を発揮してくれました。今年オリンピック予選を控え日本の代表選手も大いに期待できる活躍を見せてくれております。

最後になりましたが、大会に際しまして、多大なるご支援をいただきました、大分県、別府市、運営にご協力をいただきました大分県協会のおかげで、多くの集客、大会成功で終了することができました。また、大会参加にご配慮いただきました、各チームの方々にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

男子 大同特殊鋼

第12回東アジアクラブ選手権に出場して

大同特殊鋼ハンドボール部主将　岸川 英誉

4月16日～19日に大分県別府市で開催されました、第12回東アジアクラブ選手権に代表クラブチームとして出場させて頂きました。日本から大同特殊鋼・大崎電気、韓国からコロサ、中国から山東省、の4チームの総当たりリーグ戦で優勝が決まります。

今回の東アジア選手権に臨むに当たり、まだ1度も優勝出来ていない現状があることと、日本での開催ということで「チームワーク」を最大限発揮し、優勝することを目標に今大会へ臨みました。ですが、結果は山東省には勝つことができましたが、大崎電気・コロサに負けてしまい3位という結果に終わりました。

まず大崎電気との試合では、DFが上手く機能せず、それにより速攻での得点が奪えませんでした。セットOFではシュートがDSに偏ってしまったことで高確率に得点出来ず、後半こそDFが機能しだし自分達の流れを掴むことが出来ていた時間帯はありましたが、勝ちきることが出来ませんでした。

次に山東省ですが、今回は昨年度の経験を活かし、より高いプレスDFで相手のミスを誘い速攻での得点を狙いました。やはり高さとパワーは感じましたが、組織的で連携の取れたDFをすることができ、高い位置で早めにプレッシャーを掛けることでミスを誘い速攻へ繋げて得点を取るという狙い通りのプレーで主導権を握る時間帯が多く、結果として勝利できたことは高さとパワーを持ったチームへの戦い方の自信にも繋がりました。

最終戦でのコロサとの試合では、相手のセットOFや速攻でのスピード、プレーの正確さなどの個人の能力の高さは感じるところがありましたが、全体的にみてスピードに対する当たりや駆け引きで自分達のDFは機能していました。勝負





所に個人技で得点を奪われ、結果として後半に勝ちきれませんでしたが、戦い方として前半をリードして折り返せたことは収穫であったと感じます。

今回の東アジアクラブ選手権では3位という結果でしたが、勝つ為には今以上に心・技・体・輪（チームワーク）を強化していき、もっと強い集団にならなくてはいけないと試合を通して感じました。

最後にこの大会にご協力頂いた関係者の方々へ感謝申し上げるとともに悲願の東アジア選手権優勝を目指してこれからも頑張っていきたいと思いますので、今後ともご声援宜しくお願いします。

男子 大崎電気

東アジアクラブ選手権に参加して

大崎電気ハンドボールチーム監督　岩本 真典

私たち大崎電気は2015年4月16日（木）～19日（日）の期間、大分県別府市にて行われました第12回東アジアハンドボールクラブ選手権に日本チームの第2代表として参加させていただきました。

今大会を開催するにあたりご尽力いただいた大分県、別府市をはじめ協賛各社の皆様、そして日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構、大分県ハンドボール協会の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

東アジア地域におけるハンドボール競技発展と諸国間の密接な協力を目的として、2002年に日本、韓国、中国の3ヵ国合意のもとに、東アジアハンドボール連盟が設立され、スタートした東アジアクラブ選手権は今大会で12回目となりますが、男子においては過去に出場された日本チームは一度も優勝がありません。

大崎電気ハンドボールチームとして、この東アジアクラブ選手権での優勝（＝プレーオフ優勝）を目標に、毎年シーズンをスタートし、日々の苦しいトレーニングに励んでいました。



今大会は開催国枠（プレーオフ２位）での出場ではありましたが、シーズン当初の目標のまま優勝を目指し、大会に挑みました。

今大会は日本から２チーム大同特殊鋼 Phenix（日本代表）、大崎電気 OSAKIOSOL（開催国枠）、そして韓国から KOROSA（韓国代表）、中国から SHANDONG（中国代表）の計４チームでの総当たりリーグ戦でした。初戦は３月のプレーオフで敗れた大同特殊鋼でしたが 25 対 21 で勝利することが出来ました。２戦目は韓国代表の KOROSA。この試合に勝たなければ目標とする優勝は遠のいてしまう。REST DAY もトレーニングを行い、前日の部分的な修正をして臨みましたが、26 対 28 で敗れてしまいました。３戦目は中国代表の SHANDONG。結果は 49 対 23 と圧倒出来ましたが KOROSA が全勝で優勝となりました。

東アジアにおける諸国間の競技力向上と密接な協力を目的としてスタートした大会ではありますが、勝たなければ日本として意味がありません。

そういった意味も込めて、今大会に出場し続けることが出来るよう日々精進し、今大会での優勝を目標に新たなスタートを切りたいと思います。

今後とも大崎電気ハンドボールチームを宜しくお願い致します。

女子 北國銀行

第12回東アジアクラブ選手権に出場して

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

始めに第 12 回東アジアクラブ選手権の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに日本ハンドボールリーグ機構、大分県ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

第 39 回日本ハンドボールリーグにおいて４年ぶり２回目の優勝をした事により、第 12 回東アジアクラブ選手権への出場権を獲得し、日本主催で大分県別府市にて開催という事





もあり、オムロンチームと韓国代表は仁川、中国代表は江蘇省の計４チームが出場しました。

日本代表としての誇りを持ち、３年振り２度目の優勝を目指して、大会に臨みました。

まず、4 月 16 日に江蘇省との対戦。大型チームに対して、スピードで対抗、34 対 18 で勝利して１勝目を挙げました。

２戦目は 18 日にオムロンとの対戦。ミスが多く大味な試合展開でしたが、22 対 20 で勝利し、最終日に全勝同士で仁川との対戦を迎えました。立ち上がりから９分までは、７対４とリードしたが、その後ミスが目立ち始め逆転を許し、勢いを取り戻す事が出来ず、14 対 19 で前半を終えました。

前半から大分高校の選手達に大声援を送ってもらっていましたが、後半に残り 10 分まで６点差で凌ぐとその声援に応えるように選手達が粘りをみせます。

７ｍスロー、速攻、ロング、サイドと次々に得点を重ね、猛追します。残り 17 秒に若泉の速攻で１点差に迫るも追い付けず、28 対 29 で優勝を逃しました。

大分高校をはじめとします多くの皆様方のご声援が力となり、最後まで粘り強く戦う事が出来ました。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

平成 27 年度も多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

女子 オムロン

第12回東アジアクラブ選手権について

オムロンヘッドコーチ　黄　慶泳

■大会準備について

日本リーグプレーオフが終わって強化ポイントとして、もう一度走る、チーム守りの基本を徹底する、攻撃ではフリーの中で個々の良さを引き出すことに集中して取り組んだ。高校生、大学生との合宿等を重ねながら若手の育成、チームの底上げ、一年間戦う骨格づくりに集中的に取り組み、大会直前は国際試合に対するイメージをもたらすことに集中した。

■大会内容について

第1戦:オムロン　26(14－11、12－23)34　仁川(韓国)

昨年度の韓国リーグ王者で代表チームのゲームメーカーを含む主力のメンバーを多く保有している強豪チームである。初戦でもありチームの情報については乏しい状況であったが、韓国ハンドボールスタイルをイメージした戦術の徹底を要求して試合に挑んだ。

前半立ち上がりから相手の攻撃を中央守りからアウトサイドに追い込むことに成功して、攻撃では東濱のゲームメークに吉田と永田等がよく絡み3点差リードで折り返す。後半も何とか粘りながら戦っていたが、中盤以降から攻撃のミスから速攻に持ち込まれる展開から一気にリズムを渡してしまい、終盤どんどん離れる展開で厳しい敗戦となった。

収穫としては若手が失敗をしながらもトライし続けてくれたこと、反省点は後半点が止まった時のチーム全体の攻守において粘り強さが崩れることである。

第2戦：オムロン　20（7－10、13－12）22　北國銀行

プレーオフの敗戦を忘れないこと、攻撃的に前を狙うこと、試合の流れを感じながらゲームメークすることを確認して試合に挑む。前半立ち上がり攻撃のミスから走られてリードされる展開になりながら何とか守りで我慢しながら3点差負けで折り返す。後半は守りから速攻の点数も増えて終盤1点差まで追い上げたが反撃もそこまで。攻撃のチャンスも生かせず2点差負けとなる。守りの部分はある程度手ごたえを感じたが、速攻のバランスと得点力が課題となる試合であった。

第3戦:オムロン　35(21－10、14－12)22　江蘇(中国)

過去何度も対戦経験があり、長身を生かしたパワープレーが武器である中国のチャンピオンチーム。攻撃的な守りから速攻に持ち込み、又攻撃では吉田のロングシュートと川俣の突破などで着実に得点に繋げて大きくリードして折り返す。後半は若手を起用しながら経験を積ませることも試みながら危なげなく勝利を収めた。

今日は国際試合で長身選手と試合経験がなかった選手たちにとっては大変貴重な経験となった。

■今後の取り組みについて

韓国、中国の強豪チームと戦える貴重なチャンスがある今大会で、選手達は怪我人が多くいる状況でもしっかり今のチームの現状に合わせた戦いをしてくれたと感じる。守りの部分は今大会で3試合を通して高い質を見せてくれたと感じるが、速攻も含めて攻撃力に課題を残した大会であった。韓国のチームはテンポが良くて、数的有利な状況を作り出すのがシンプルで非常に上手であった。中国は高さを生かしたパワープレーに特徴があって、守りから攻撃に転じるスピードが非常に早かったと感じる。

今後の取り組みについては守りを更に強化して速攻、攻撃に繋げて得点力を上げることが必要であると思うので、その点を重点強化ポイントとして取り組んでいきたい。

今大会の準備、運営にご尽力頂きました各関係者の皆様方には心よりお礼申し上げまして大会のご報告といたします。ありがとうございました。



高松宮記念杯
第5回
全日本社会人ハンドボール選手権大会

大会期間：平成27年5月20日（水）～5月24日（日）
会　　場：富山市総合体育館
試合形式：男子：予選トーナメントから決勝リーグ戦（及び順位決定戦）
　　　　　女子：予選リーグから決勝トーナメント（及び順位決定戦）

最終順位

【男子】

優勝：大崎電気
2位：トヨタ車体
3位：大同特殊鋼
4位：トヨタ自動車東日本
5位：湧永製薬
6位：トヨタ紡織九州
7位：豊田合成
8位：琉球コラソン
9位：HONDA
10位：北陸電力
11位：HC和歌山
12位：HC岐阜

【女子】

優勝：北國銀行
2位：オムロン
3位：三重バイオレットアイリス
4位：香川銀行T・H
5位：広島メイプルレッズ
6位：ソニーセミコンダクタ









男子　大崎電気　優勝

大崎電気ハンドボール部監督　岩本 真典

はじめに、高松宮記念杯第５回全日本社会人ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた社会人連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元富山県、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

この度、高松宮記念杯第５回全日本社会人ハンドボール選手権大会において実業団選手権（51 回）も含め通算３年ぶり 17 回目の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ従業員の皆様、そして多くのファンの方々の力あってこその結果だと思っております。

そして何より選手の努力の賜物だと思っています。この優勝をスタートにこれまで以上の努力を重ねると共に、人間力の向上に励み、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後とも大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。

大崎電気ハンドボール部主将　岩永　生

はじめに、今大会を主催、主管して下さった日本ハンドボール協会、富山県ハンドボール協会、各関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。私たち選手が競技することに専念できたのは皆様のお力があっての事だと思っています。また、合宿や試合などで席を空ける事が多い私たちを日頃から支えてくださっている会社の皆様、会場で大きな声で応援して下さるファンの皆様の声援があってこその今回の結果だと思っています。重ねて御礼申し上げます。

大会を振り返ると、全体を通して常にいいチーム状態とは言えませんでした。特に決勝リーグ２試合目のトヨタ車体戦はシュートを外して、何かいつもと違うと思いつつも試合中に修正できないまま敗戦してしまいました。試合後はみんな口数も少なくいい雰囲気ではなかったのですが、夕食の時の岩本監督の魔法の一言で気持ちを切り替えることができました。最終戦は大同特殊鋼との対戦で、私たちが優勝するには６点差以上での勝利が条件でした。この日は今までの３試合とは違い大崎がやりたい DF からの FB が数多く見られて最終的に 11 点差という大差で勝利することができました。

今大会は国内大会で唯一のリーグ戦方式の大会なので、負けても優勝することができましたが、これからの国体、総合、プレーオフは負ければ終わりのトーナメント方式の大会になります。今大会では好不調の波が激しくて悪い時は負けてしまいましたが、次の戦いに向けて好不調の波を減らし、悪い時でも勝てるチームになれるように今大会の反省を活かして大崎電気としての悲願である４冠を達成するためにチーム一丸となり日々努力していきたいと思います。



女子　北國銀行　優勝

北國銀行ハンドボール部キャプテン　寺田 三友紀

始めに第５回高松宮記念杯全日本社会人選手権大会の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力いただきました日本ハンドボール協会、全日本社会人ハンドボール連盟及び社会人委員会並びに富山県ハンドボール協会など、多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

今シーズンも４大タイトルの１つ目のタイトルである今大会を優勝できたことを心から嬉しく思います。これも一重に日頃よりご支援、ご声援をいただいております石川県体育協会並びに石川県ハンドボール協会、サポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そしてチーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

予選リーグ・準決勝では好不調の波が大きく満足のいく試合運びができませんでしたが、決勝では自分たちの持ち味である守って速攻の展開に持ち込むことができ優勝することができました。

今大会を振り返りエアーポケットの時間帯が長く得点できない状態や、ディフェンスが機能しなくなった時の素早い対応能力の課題を克服し、次の国民体育大会、日本選手権、日本リーグに向けて更に気を引き締めて戦っていきます。

この優勝は私たちだけの力ではなく、陰で支えてくださった多くの関係者の皆様のおかげです。改めて心より感謝申し上げます。

今後もまだ戦いは続きます。すべての戦いで勝ち抜ける体力、戦術を身につけチーム一丸となって力の限り頑張っていきたいと思っておりますので、北國銀行をはじめ協会、サポーターの皆様にこれまでと変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願いします。



戦　評

〈男子〉

■決勝リーグ：トヨタ車体　34（13－9、21－10）19　トヨタ自動車東日本

立ち上がりトヨタ車体が石戸のカットインで先取点を奪うと、トヨタ自動車東日本は上野のロングシュートで取り返す。お互い確実にサイドシュートを決めて2対2。トヨタ自動車東日本は高いディフェンスでパスコースを限定し、最後はGK関口が好セーブ。対するトヨタ車体は低いディフェンスからの激しいプレスで、相手のロングシュートをGK加藤が防ぐ。ロースコアでなかなか得点が入らない展開が続くが、20分過ぎにトヨタ車体は門山を入れて流れを変えて点差を広げる。両チーム共に2度の退場を相手のミスにも助けられて何とかしのぎ、トヨタ車体が4点リードで前半を終える。

後半に入って、トヨタ自動車東日本のミスからのチャンスを得点につなげてトヨタ車体が5連取で一気に差を広げる。トヨタ自動車東日本は13分過ぎに両バックプレーヤーにマンツーマンディフェンスをつけるなど何とか流れをつかもうと試みるが、トヨタ車体がそのディフェンスをかいくぐって得点する。トヨタ車体のオーバーステップから逆速攻で上野の強烈なミドルシュートや堤のステップ・ミドルシュートなどで得点を重ねるがトヨタ車体の勢いを止める事が出来ず終了した。

■決勝リーグ：大崎電気　28（15－9、13－8）17　大同特殊鋼

立ち上がり大同特殊鋼は野村のロングシュート、藤江のミドルシュートで連取すると、大崎電気も信太のミドルシュート、相手のミスからの速攻で取り返す。大崎電気は森のポストシュートや東長濱のミドルシュート、大同特殊鋼は久保龍のフェイントからのミドルシュートや藤江のステップシュートなどで両チームが一進一退の攻防を繰り広げなかなか点差を広げる事が出来ない。17分を過ぎたころから大崎電気の高いディフェンスに対して大同特殊鋼は攻めきれず大崎電気のパスカットからの速攻が出始める。終盤に入って大崎電気がさらに高いディフェンスを展開して大同の攻撃を寸断し、連続でパスカットからの速攻を決めて6点リードで前半を終える。

後半に入って、大崎電気はパスカットからの速攻などの得点で更に点差を広げるが、大同特殊鋼はGKを久保侑から田中に代えてから好セーブが続き、攻撃でも藤江、武田などの攻撃で点差を縮める。両チーム落ち着きを取り戻し、GKの好守も続き膠着状態となる。終盤に入り、大崎電気は信太や石川のロングシュートやポストシュートなどでじりじりと点差を広げる。最後は11点差で大崎電気が勝利し優勝を手にした。

〈女子〉

■3位決定戦：三重バイオレットアイリス　22（11－10、11－10）20　香川銀行

3位決定戦。三重のスローオフで開始。三重の2連続得点で試合が進む。開始7分、三重20番退場、その間に香川がサイドシュートなどで4対4の同点。三重は約10分間得点のないまま16分にタイムアウト。その後はお互いに点を取り合い11対10で前半を終了。

後半、両チーム点を重ね7分30秒に15対15の同点。その後、三重が速攻、サイドシュートで19対16としたところで香川がタイムアウトを請求、直後香川の7mスロー、速攻で19対18と追い上げる。24分35秒三重がタイムアウトを請求し、お互いに点を取り合う。最後は三重21番池原のサイドシュートが決まり22対20で終了。

■決勝戦：北國銀行　25（13－7、12－11）18　オムロン

オムロンのスローオフで前半が開始。序盤決勝戦の硬さからか両チームともミスが多く、ロースコアの展開となる。5分過ぎより徐々に北國銀行がペースを掴み始め№5塩田の速攻などで12分過ぎには8対3と北國銀行がリードを広げる。しかし北國銀行は不正入場のミスを犯し流れがオムロンに傾き始め№17東濱のステップシュートなどで3連続得点し差を縮める。その後は一進一退の展開となるが25分過ぎより4連続得点した北國銀行が前半を13対7とリードする。

後半立ち上がり両チームGKの好セーブもあり得点が進まない。しかし北國銀行は9分過ぎオムロン№17東濱の退場をきっかけに4連続得点し一気に差を広げる。オムロンも何とか差を詰めようとするがミスが多く差を詰めることが出来ない。結局北國銀行が25対18でオムロンに圧勝し2年連続3度目の優勝となった。

女性指導者の指導環境の現状と課題
指導者が学びやすい環境を作ろう

（公財）日本ハンドボール協会 普及指導本部 女性専門委員会
東海林祐子（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 准教授）

▶はじめに

2014年7月1日から10月30日の期間に各都道府県の女性指導者を対象として「女性指導者の指導環境」に関するアンケート調査を実施いたしました。アンケート調査に協力いただきました女性指導者の皆様および、窓口となっていただきました各都道府県の理事長の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私は3年前から（公財）日本ハンドボール協会の普及指導本部の傘下にある女性専門委員会で、女性指導者や女子選手の普及などを目指した委員会に所属しその役割を仰せつかっております。時代の流れからか、各競技団体の協会組織にも同様の委員会が設置されておりますが、ある講習会でいくつかの競技団体の女性専門委員会担当者にヒアリングをしたところ、各競技団体ともに「何をどういう目的でどのように実施していけば良いのかわからない」というのが現状のようでした。ハンドボール種目でも同様でありました。そこで、本委員会では、まずは、女性指導者の普及を目指すことを目標とし、現状を把握し課題を抽出することを目的としました。指導現場においては、男性も女性もないという意見もありますが、現実には女性指導者の数は少なく、女性特有の課題があることが想像できます。指導者が少なければ児童や生徒がハンドボールをしたくてもできない環境となってしまいます。アンケート調査を通じて女性特有の課題を明らかにし、課題解決のために少しでも有益な情報が共有できればと考えております。

▶調査の方法と潜在的な女性指導者の割合

調査の方法は（公財）日本ハンドボール協会事務局（以下、事務局）から各都道府県の理事長に「女性指導者の指導環境に関する意識調査」のアンケートをメールで一斉送信し、各都道府県の理事長を通じて女性指導者に発信してもらいました。質問項目は属性（所属先、年齢、競技歴、指導歴など）と指導上の悩み、それを解決するための具体的な取り組みや要望などに関する質問としました。

全国で171名の女性指導者に回答いただきました。予算が限られることからメール添付の一斉送信となりました。また各都道府県にどのくらいの女性指導者が存在しているのか、事務局より各都道府県の理事長にメールおよび電話で確認させていただきました。表1には都道府県ごとの女性指導者の比率トップ10を示しています。小学から大学までのカテゴリーすべての女性指導者の数は、指導資格有り無しすべてを含めて1111名となりました。一番多い愛知県（161名）は中学、高校のカテゴリーでトップを占めました。東京都や兵庫県、神奈川県、大阪府でも中学、高校のカテゴリーで多くの女性指導者が存在しました。鹿児島県や熊本県では小学のカテゴリーで女性指導者が多く見られることがわかりました。

表1　都道府県全体の女性指導者比率 TOP10
総数の TOP10

順位	都道府県名	女性総数	（総数）女性指導者率
1	愛知県	161	14.49%
2	東京都	102	9.18%
3	兵庫県	76	6.84%
4	神奈川県	69	6.21%
5	大阪府	68	6.12%
6	埼玉県	39	3.51%
7	京都府	33	2.97%
8	沖縄県	32	2.88%
9	熊本県	31	2.79%
10	鹿児島県	30	2.70%

今後ハンドボール競技の普及と発展を考えた場合に、男性の指導者だけでなく、女性指導者をいかに増やすのかは課題の一つと言えますが、上位にある都道府県の各カテゴリーで女性指導者がどのような経緯や戦略で増加していったのかについて今後調査したいと考えています。

▶女性指導者が抱える3つの悩みについて

さて、次に女性指導者の指導環境についての質問で指導上の悩みについて表2に示しました。大きく分けて3つの悩みがあることがわかりました。1つ目は指導現場と家庭との両立、2つ目は選手間および選手と指導者間のコミュニケーション、3つ目は技術や戦術に関する悩みです。

次ではアンケート調査で見られたこれら3つの声について記していきます。

- 「子育てがあるので、休日の指導ができない。保育園のお迎えがあるので帰宅時間も決められている。複数顧問で対応できればいいが、学校によっては難しい面もある。足りない時間は外部指導員などで対応したり、卒業生などに頼めればよいが、それでも顧問がいなければならないので難しい問題である」
- 「育児期間中の何かしらのサポート、子どもが小さいうちは部活動にさける時間が圧倒的に少なく、また休日の練習・試合を子連れで引率することも難しい」

これらの声から現場と家庭の両立がいかに難しいのかが伝わります。私自身も現在2人の子持ちであり、次男は7ヶ月でもあることから仕事と家庭の両立が困難です。その日暮らしでなかなか先のことをやる時間的余裕がないのが現状です。夜の授乳などがあると体力的な問題もでてきます。昨夜も夜泣きで真夜中に1時間以上抱っこしたままでした。

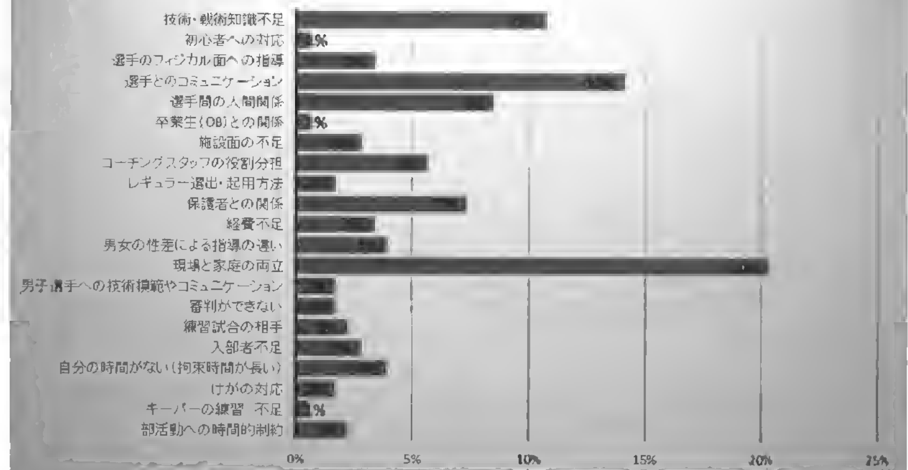


表2　具体的にどのような悩みがあるか

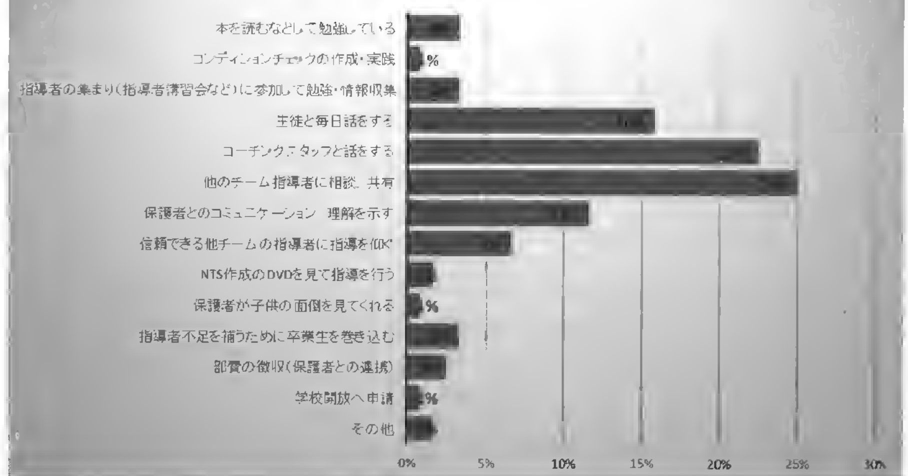


表3　具体的な解決策

次に選手とのコミュニケーションに関する悩みです。

- 「指導歴がないにも関わらず、気になる態度やプレーを指摘するため、選手とうまくコミュニケーションがとれない」
- 「選手間の関係で何か悩みを抱えているようだが、他の仕事があり、なかなか現場に行けないために見えていないことが多く適切な対応ができない」
- 「コーチがいないために選手を叱ってしまった際に選手との関係をどのようにすればよいのかわからない」
- 「女子生徒内でのトラブル、人間関係のもつれが多くある」

次に技術、戦術に関する悩みの声を記しました。この声は上記二つの悩みと関連しているようです。

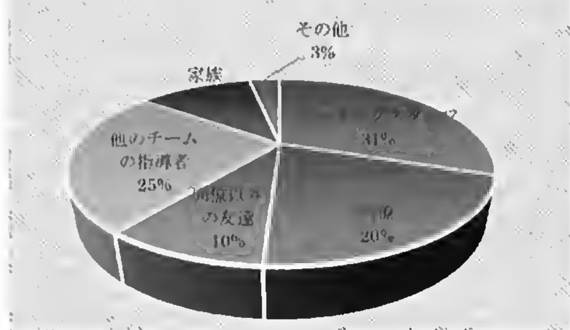
- 「競技経験がないために指導がうまくできない」
- 「選手に競技の模範を示すことができない」
- 「初心者の指導がわからない」
- 「男女によって指導の違いがあると思うがそれをどのように指導すればよいのかわからない」

これら三つ以外にも多くの悩みが出されましたが、紙面の関係上、今回はこの三つに着目して課題克服のための具体的な取り組み（表3）を紹介していきます。

▶課題克服のための具体的な取り組みと要望について

「悩みを抱えたときどのように解決されましたか？」という質問に対して一番多かったのは「困ったときは信頼できる人（コーチ、同僚、友人、他のチームの監督など）に相談する」（表4）でした。

- 「他のチームの指導者に相談したり、同じ悩みを持ちながら解決方法を考える」
- 「信頼できる指導者を頼って、チームを連れて何回も通った。NTSでの実技DVDを見て指導を行った」
- 「家庭との両立は難しいのですが、合同練習の場や講習会を地域ごとに開催したりすると、背負うものが少なくなり少し楽かもしれません。やはり女性は家庭の



なかでの子育てを第一に、部活動も同等な位置にありますが両立は難しい。気軽に頼める環境があるといいなと思います」

上記にもありますように一人の指導者にかかる負担をどう軽減するのか、誰とどう連携するのか？　また、学ぶ教材が近くにあるのかなどが悩みを解決する糸口になります。これらの課題はなかなか簡単に解決できる問題ではありませんが、アンケートのなかに次のような意見がありましたのでご紹介します。

● 「以前は、副顧問の方はまったく関与してくださらなかったのですが、管理職に話し、経験者や積極的な方に顧問として入っていただくことがやっとできました。曜日当番体制にしてそれぞれの目で見ていただくようにしています。顧問にも若い先生も入り、また3人の顧問が1、2、3年とそれぞれの学年団に分かれているので、以前より情報が入りやすくなりました。会計、予定表作成、会議出席、など仕事を分担したので、一人でしていたときより楽になりました。男子顧問も含めて、学期に1回くらい親睦会をすることで、クラブのもって行き方について共通理解が形成されます。他校の先生方にも疑問に思ったことは聞いて、指導のヒントを得るようにしています。」
● 「生徒や保護者には家庭の事情も始めから話して、理解を求めている。また、夏休みからは副顧問がつくようになったので、この先生には日頃からハンド部の現状を話しているので、同じ考えのもと指導してもらえると思う（ハンド部の競技経験はないものの、部活動のあり方や生徒指導面では考え方が同じなので）。また、外部の指導者の方にも理解していただき、協力をいただいている。他には、社会人で同じ県のチームで活動した仲間に技能面について相談することで、気持ち的にも楽になっている。」
● 「男子を指導している先生の指導の仕方を見て、自分なりに工夫した。よいことはとりいれた。他校のOBに指導をお願いして、話し合いをして共通事項を決め、お互いの役割分担をして指導した。大学の同級生のチームと練習試合で指導してもらったり、アドバイスをしてもらったりしました。」
● 「練習会場に子どもをつれてきている、保護者が面倒を見てくれています」

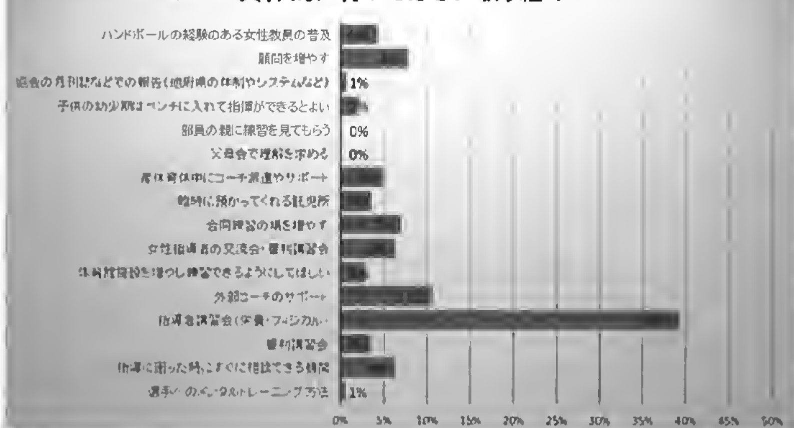
大変参考になる具体的な意見だと思います。学校運動部活動で顧問を増やすのは簡単ではないと思いますが、何度も話をして管理職に理解してもらい、顧問を増やしてもらったという意見は他にもいくつか見られました。学校運動部活動は技術の向上だけでなく、教育の場として最も効果的であると考えられ、顧問間や卒業生などと連携していくことはさまざまな視点で導いてもらえる生徒にとっても貴重な体験になると思われます。

多忙を極める余裕のないなかで、自分で道を切り開いていくことは大変困難な道筋だと思います。しかし諦めずにサポーターを一人でも多く作ることができるように働きかけると同時に、各都道府県や地方協会の役員が教育委員会にアプローチするなどしてハンドボールの運営のための環境を整備していってくれることを期待しています。こうしたアプローチがうまくいった都道府県もあるようです。またハンドボール経験のない顧問や力になってくれる人をハンドボール界に取り込むことが大切かと思います。そのときに重要なのは、競技経験のない人（顧問）が学びやすい環境になっているか

どうかだと思います。試合会場や練習会場で、一部の競技経験のある指導者が固まって排他的で閉鎖的な雰囲気を醸し出していないでしょうか？　指導者はチームが弱かったり人数が少なかったりすると肩身の狭い思いをするものです。そのようなときに、わからないことは何でも聞けるような懐の深い指導者やアドバイザーがいますでしょうか？（これは男女に限らずですが）自分のチームが勝利することはもちろん大事ですが、競技経験のない指導者や育児との両立でなかなかハンドボールに時間をさけない指導者が気兼ねなく相談できる場所があることを望みます。

最後に具体的な要望について尋ねてみました（表5）。

- 「中学生や高校生、初心者の生徒に対する指導についての知識がないので、そうした講習会があるとよい」
- 「ハンドボールの技術指導だけでなく、栄養やメンタル、体力トレーニングに関する講習会があるとよい」
- 「協会主催の大会（春中、JOC など）で経費を調達できず強化をしづらい状況にあります。他府県の体制やシステムがどのように運営されているのか、協会の月刊誌などで掲載してもらえると情報交換になるのではないかと思う。」



▶誰もが学ぶことができるハードルの低い指導者のための環境作りに向けて

こうした意見を少しでも反映させることができるように、各関連機関と連携を取り合って情報共有をしていきたいと思います。

具体的には、いつでもどこでも学びたいときに学ぶことができる指導環境を作ることが重要であるかと思います。指導経験あるなしに関わらず誰もが学ぶことができるハードルの低い指導者のための環境を作り提供していくが大切だと思います。要望にありました「初心者の指導」、「GK の指導」、「メンタルトレーニングやフィジカルトレーニングの方法」、「栄養講習会」などについて、現在、日本協会の HP などで一部動画配信されていますが、日本ハンドボールリーグ機構や社会人委員会と連携しながら指導方法について動画配信できるといいと思います。また全国で実施される講習会についても子ども連れでの参加などを検討してもらえるように働きかけたいと思います。年8回発刊の協会機関誌では現場に有益な情報交換や練習方法について掲載してもらえるように打診します。できることから着実に実行できるように進めていきたいと考えております。

現場で一生懸命に選手とともに汗をかいておられる指導者が「選手とともに頑張りたい」と思えるような支援を少しでもできるように日本ハンドボール協会が各都道府県や地方協会と連携をして、先頭に立ったりフォローしたりしながらやっていくことが大切かと思います。

今後も不定期ですが、その取り組みについて参考になることは紹介していこうと考えております。

～喫煙とは、何たることか～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

「そのこと」に触れた時、無性に腹が立ってきた。情けない。開いた口がふさがらない…。いろんな気持ちが駆け巡った。男子日本代表の喫煙問題。高校選抜大会の騒動が冷めやらない中での新たな“事件”発覚だ。

味の素ナショナルトレーニングセンターでの合宿中に主力８人が禁煙の宿泊棟「アスリートヴィレッジ」内のベランダでたばこを吸ったとして、日本オリンピック委員会（JOC）から利用規定違反として３カ月の利用禁止処分を受けた。

それまでも2011年ごろから“掟破り”が常態化していたとの報道もある。JOCでは昨年末、各競技団体に喫煙所以外での禁煙徹底を通達、違反した場合は宿泊施設の利用を制限する罰則を決めた。今回の適用は初めてで、全く不名誉な出来事と言うしかない。

男子の日本代表は、昨年の韓国・仁川アジア大会で史上最低の９位に終わり、11月に予定されるリオデジャネイロオリンピック・アジア予選に向け岩本真典監督のもとで再出発、今回が初の強化合宿だった。その矢先の不祥事だけに、余計に残念である。

今回の不祥事を受けて日本協会では、東日本大震災の被災地で奉仕活動などの更生プログラムに従事させると言う。日本協会は２度にわたってホームページに「お詫び」を載せ「自覚の欠如」「姿勢の欠如」などを挙げ「再発防止に徹底指導に取り組む」としている。だが、それで済む問題ではない。今後の合宿、さらに他の競技団体にも影響を及ぼしたことは明白である。

ハンドボール男子はソウル大会以来６大会連続してオリンピックの舞台に立っていないのはご存じの通りだ。オリンピック出場は日本ハンドボール界の“悲願”として、何としてもリオデジャネイロ大会出場をキーワードに復活をかけている。半年後に迫った時期での不祥事は、なんとも悔しさと無念さが交錯する。

日の丸をつける自覚と誇りは、どこにも感じられない。将来、代表を目指す次世代の選手に何と説明するのか、詫びるのだろうか。また、数年前から喫煙が常態化していたとすれば、協会自体にも問題があろう。合宿前に代表として取り組む姿勢、自覚を促すべきだろうし、監督責任も問われるべきではないか。

特に2020年東京オリンピックやスポーツ庁設置を控え、アスリートの動向には注目が集まる。それだけにいっそうの自覚は当然ながら求められるはずだ。スポーツはルールを順守することで成り立っている。ルール順守の自覚と規律ある行動は当然である。

問題発覚を受けて知人から言われた言葉が悲しい。

「ハンドボールだから、これくらいで収まっている。トップ競技だったら反響はすごかっただろう」

返す言葉に困ってしまったのが正直なところだ。

2015年度全日本大会レフェリー名簿

平成27年6月1日版

大会	開催地	期日	審判員氏名
第5回 全日本 社会人選手権 （8ペア）	富山県 富山市	5月20日 ～ 5月24日	◎吉田敏明○岩上浩一郎 太田智子・島尻真理子（協会指名）　河合威廷・臼井　健（協会指名）　新井友彦・中嶋　秀（協会指名） 黒木龍二・黒木秀吾（協会指名）　桶家秀介・魚川友康（富山）　仲野和也・藤坂明雄（福井） 松本光則・南川裕隆（愛知）　冨田　拓・野平健二郎（茨城・埼玉）
第28回 全国小学生大会 （4ペア）	京都府 京田辺市	2015/0/0 ～ 2015/0/0	◎岡辺清和○川勝裕義 近藤和矢・塩見雅之（京都）　大東賢典・森　達哉（滋賀）　手塚　勝・西田豊三（福井） 足立智司・田中基明（愛知）
第66回 全日本 高校選手権 （24ペア）	大阪府 堺市	8月2日 ～ 8月7日	◎島村浩信○佐々木昌弘 土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　永春文義・安田　寛（協会指名）　小田健介・鈴木孝明（北海道） 高階和也・森　義則（秋田）　高橋恭文・塚本　光（東京）　金坂英宣・柏　博聡（石川） 上原一人・高村　一（長野）　各務宗孝・森　裕太（岐阜）　深見忠司・伊藤誠祐（愛知） 片山　聡・大岩広人（静岡）　木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山）　前田隆志・北羅雅士（大阪） 早瀬　司・小宮　直（滋賀）　髙橋知滉・木下智晴（大阪）　西山周良・太田直希（京都） 石原秀和・国澤　隆（岡山）　吉田達明・藤原孝夫（鳥取）　岡田雅央・西村隆典（山口） 山地　翔・川内健矢（香川）　森實岳史・井関　敦（愛媛）　田中　親・小松義貴（佐賀） 水津研二・那須章浩（山口）　野地敏雄・小俣宏之（福島）　小島康次・圓道　慶（大阪）
第20回 ジャパン オープン （15ペア）	岩手県 花巻市	8月9日 ～ 8月12日	◎藤井俊朗○中舘豊 新井友彦・中嶋秀（協会指名）　荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　亀山耕司・水谷省一（北海道） 東北ブロック2ペア　東北ブロック2ペア　沢崎亮太・宮林龍希（千葉） 斉木翔平・北野冬馬（神奈川）　得居秀匡・村上　隆（東京）　森山海里・高橋ひかり（長野） 高森　賢・杉山寛政（岐阜）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫）　藤本靖雄・東　慶一（山口） 前上里亘・知念昌平（沖縄）　田中　愛・白石智子（愛媛）　中野達也・大坊春樹（岩手）
第44回 全国中学校 （9ペア）	岩手県 花巻市	8月21日 ～ 8月24日	◎戸塚幸廣○中舘豊 土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　比留間康・北嶋　浩（協会指名）　輪島　宏・石垣正樹（北海道） 大沢　勝・谷藤　航（岩手）　古賀直哉・荒井啓貴（宮城）　平塚亮介・益田耕治（山梨） 矢崎　豊・名取　中（山梨）　北信越ブロック1ペア　若森紗羅良・古川英樹（岐阜）
第70回 国民体育大会 （18ペア）	和歌山県 和歌山市 紀の川市 岩出市	9月28日 ～ 10月2日	◎藤井俊朗○岡辺清和○吉田正明 河合威廷・臼井　健（協会指名）　永春文義・安田　寛（協会指名）　高橋容平・磯部尚志（北海道） 本田　隆・曲山泰一（福島）　堀江成典・東野流生（東京）　仲野和也・藤坂明雄（福井） 松本光則・南川裕隆（愛知）　畑中寛之・梅木信男（岐阜）　北山力也・貝田良寛（兵庫） 木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山）　吉田健・岡野哲裕（京都）　佐々木皇介・馬場智也（広島） 山本孝志・山根貴志（島根）　横手健太・高木優明（香川）　河野翔保・小笠原龍太（愛媛） 川端祐貴・今泉暢禎（福岡）　岩角聖孝・上飯坂徹（岩手）　岡橋友美・東　チホ（和歌山）
男子第58回 女子第51回 全日本 学生選手権 （13ペア）	北海道 函館市	11月7日 ～ 11月11日	◎高野修○山口工　＊各ブロック学生連盟からの推薦を参考に調整。 小川至門・内記　徹（協会指名）　黒木龍二・黒木秀吾（協会指名）　田中　潤・河合　哲（香川） 小田健介・鈴木孝明（北海道）　邊　輝哲・工藤和貴（岩手）　岡　裕之・東出拓也（石川） 伊東史裕・菅原圭悟（神奈川）　水野　遼・山田祐輔（愛知）　関西学連1ペア 蟻川武司・瀬良研一（愛媛）　福島亮一・重村達浩（熊本）　開催ブロック又は地元協会から 開催ブロック又は地元協会から
第67回 日本選手権 （12ペア）	愛知県 名古屋市	12月22日 ～ 12月27日	◎藤井俊朗○仲田稔○浜田浩和○坪井雅典 日本協会競技本部で選出
第24回 JOCカップ （14ペア）	沖縄県 浦添市 那覇市	12月24日 ～ 12月27日	◎戸塚幸廣○島村浩信 日本協会指名2ペア　日本協会指名2ペア 四元俊一・中田　隆（栃木）　軒田隼人・栗田基秀（静岡）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫） 石原圭二郎・渡邊達雄（岡山）　青江活茂・所　努（岡山）　田中　愛・白石智子（愛媛） 濱田哲雄・弘田睦仁（高知）　青木忠久・原口佳也（長崎）　神田史郎・小牟禮竜太（鹿児島） 佐藤高行・島村奈央美（福岡）　堀川智宏・内海秀昭（大分）　金城勇人・新里泰司（開催地・沖縄）
第11回 春の全国 中学生選手権 （18ペア）	富山県 氷見市	3月25日 ～ 3月29日	◎藤井俊郎○戸塚幸廣○岩上浩一郎 河合威廷・臼井　健（協会指名）　黒木龍二・黒木秀吾（協会指名）　大久保孝・中里雄太（青森） 水戸部英和・鎌倉　智（山形）　山口悠歩・金井匡司（群馬）　野中　毅・小塙和也（栃木） 伊東史裕・菅原圭悟（神奈川）　岡　裕之・東出拓也（石川）　森　義久・伊藤翁一（富山） 森山海里・高橋ひかり（長野）　貝沼圭吾・須原幸一（三重）　伊藤慎介・大石　剛（愛知） 下屋幸比古・佐々木聖恭（岐阜）　吉田　健・岡野哲裕（京都）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫） 鵜野裕基・杉山耕平（大阪）　寺尾智明・柴岡貴広（岡山）　鍋島圭太・澤田英二（高知）
第39回 全国高校選抜 （18ペア）	兵庫県 神戸市 加古川市 高砂市	3月25日 ～ 3月30日	◎島村浩信○佐々木昌弘 荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　比留間康・北嶋　浩（協会指名）　合田享弘・橋本　賢（北海道） 東北ブロック1ペア　和久長義・野川早苗（埼玉）　阿部　哲・川田和磨（千葉） 徳光明博・塩野利明（石川）　近藤　悟・吉田博紀（静岡）　郡司恵太・森　将太（愛知） 辻岡洋祐・横山　航（大阪）　近藤和矢・塩見雅之（京都）　小島康次・圓道　慶（大阪） 指野　緑・安井　誠（岡山）　竹安未央・浜田倫暢（鳥取）　近藤啓司・瀬良耕二（愛媛） 森山陽介・大崎祥弘（高知）　岩崎栄一・中藤圭祐（宮崎）　北山力也・貝田良寛（兵庫）

東日本大震災復興支援「届けよう　スポーツの力を東北へ！」

平成27年度 第18回ハンドボール研究集会要項

テーマ 「ゴール型教材としてのハンドボール―その8―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示され、平成23年4月1日より全面実施された現行の小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が従前の種目の列挙を改めて3つの型に分けられ、多彩な運動が体系的に選択できるようになっている。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされている。すでに従前の小学校指導要領にハンドボールの名称が初めて記載されて以来、平成20年の改訂にいたるまでの間、学校体育ハンドボール検討委員会は、その活動の成果として、次のような教材価値を検証してきた。すなわち、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であることなど、独自の諸特性をもっているということである。しかしながら学校現場では、このような教材価値を備えたハンドボールに触れる機会が無く、どのように子どもたちに伝えていけば良いのか分からないという先生がまだまだ多いというのが現状のようである。従って、ボール運動が体系的に整理された現行指導要領が全面実施されている今こそ、ゴール型の中でも走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材価値をさらにアピールしていくとともに、低・中学年のゲーム、及び中学校の球技との関連性を考慮した一貫指導体系を確立していかねばならない。そこで本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　公益財団法人日本ハンドボール協会

主　管　長崎県ハンドボール協会、佐世保ハンドボール協会

後　援　文部科学省（申請中）、長崎県教育委員会（申請中）、佐世保市教育委員会（申請中）、(公財) 長崎県体育協会（申請中）、(公財) 佐世保市体育協会（申請中）

対　象　小学校、中学校及び高等学校教諭、教員養成大学学生・大学院生及び教員、地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等

会　期　平成27年8月4日（火）～5日（水）

会　場

佐世保市体育文化館
〒857-0805　長崎県佐世保市光月町6-17　TEL：0956-22-1522
佐世保市中部地区公民館
〒857-0805　長崎県佐世保市光月町6-17　TEL：0956-25-2360

日　程　8月4日（火）

受　付　12：00～12：30（佐世保市中部地区公民館）
開会式　12：30～12：50（佐世保市中部地区公民館）
講　義　12：50～13：50（佐世保市中部地区公民館）
講師　香川大学教育学部准教授　米村耕平
研究発表　14：00～15：10（佐世保市中部地区公民館）
実技研修　15：30～17：00（佐世保市体育文化館）
講師　天理大学体育学部講師　木下光正
交流会　18：30～20：30（体育文化館・ホテル付近で検討中）
※会場が決定次第、参加希望者には別途連絡。

8月5日（水）

受　付　8：30～8：45（佐世保市中部地区公民館）
日程確認　8：45～9：00（佐世保市中部地区公民館）
講　演　9：00～10：00（佐世保市中部地区公民館）
講師　文部科学省スポーツ・青少年局体育参事官付教科調査官　高田彬成
授業提案　10：15～11：00（佐世保市体育文化館）
佐世保市立大塔小学校高学年「ゴール型ゲーム～ハンドボール～」
研究協議　11：15～12：15（佐世保市中部地区公民館）
閉会式　12：15～12：30（佐世保市中部地区公民館）

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局

〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育研究室　佐藤靖
E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp　TEL & FAX：018-889-2577

大会事務局

〒857-1153　佐世保市もみじが丘町6745
佐世保市立大塔小学校　児玉浩三郎
E-mail：kouzaburou.kodama@city.sasebo.ed.jp
TEL：0956-33-2762　FAX：0956-33-8125

参加費

教員・指導者3,000円
学生・大学院生1,000円（当日、受付にて学生証提示）
※資料代、及び保険料込み。当日受付にて徴収。
交流会参加費4,000円

参加申込　参加を希望される方は、別紙参加申込書に必要事項を記入の上、E-mailかFAXの方法で上記「大会事務局」までお申し込み下さい。締切り日は特に設けません。当日も受け付けます。

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究及び実践報告を募集します。発表を希望される方は、大会事務局、または専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。

1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は、演題数により変更することもあります。

2）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。

3）締切り日：平成27年7月21日（火）

尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。

その他、発表に関してご不明な点は、大会事務局までお問い合わせ下さい。

宿　泊　宿泊を希望される方は、会場近くのホテルを斡旋しますが、大会事務局の確保数に限りがありますので、早めにお申し込み下さい。

宿泊先：セントラルホテル佐世保（シングル1泊朝食5,000円）

平成27年度授業実践推進制度に基づく授業実践者募集要項
「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1　趣旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に授業実践を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　授業実践内容

（1）授業実践のテーマは次のとおりとする。

ア　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ　簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ　ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ　その他

（2）授業実践者は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゴール型ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、授業実践を進めることとする。

3　授業実践期間

おおむね2年間とする。

4　対象授業実践者

各都道府県協会より推薦された教員の中から6名程度選出する。選出は（公財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5　授業実践に当たって

（1）授業実践者は、校内における授業体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に授業実践を推進する。

（2）授業実践者は、（公財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に授業実践を推進すること。

（3）授業実践者は、第1年次には授業実践の中間報告書を、また授業実践期間の終了時には授業実践成果報告書を、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて授業実践者および都道府県協会と連絡をとり、授業実践の推進について意見および情報の交換を行なう。

6　経費

日本協会は、授業実践の委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

7　その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8　締切

第一次締切：平成27年7月17日（金）

9　申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（公財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表　佐藤靖）

〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1

秋田大学教育文化学部

スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室

TEL/FAX: 018-889-2577

E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

第24回男子世界選手権
参加報告

国際審判員
池渕智一
檜﨑　潔

1月15日から2月1日までカタール国ドーハにて行われた男子世界選手権に、我々ペアはレフェリーとして参加しました。2006年にIHFの資格を取得して8年が経ち、一つずつステップアップをしながらようやくこの大会にノミネートされた時には本当に嬉しく、また光栄であり、様々な思いが込み上げてきたのを覚えています。また、ノミネート発表後には多くの方々からお祝いと激励のお言葉をいただき、周囲の方々から支えられて活動できていることを改めて感じました。まずは、いつもご支援、ご指導くださる皆様にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今回の世界選手権は我々の目標である2016年リオ五輪の舞台に立つためには必ずノミネートされなければならない大きな意味を持つ大会でした。今回の世界選手権を経験し、そのうえで今年一年が本当の勝負だと感じています。目標を達成できるよう努力を続けていきたいと思います。

今大会への参加によって男女全カテゴリーの世界選手権を経験しましたが、やはり男子世界選手権は今までにない規模と雰囲気でした。各大陸を代表する18ペアのレフェリーがノミネートされ、彼らの意気込みもすさまじいものでした。大会前に各地で行われる強化トーナメントに参加して準備をしたレフェリーもいたようです。中にはトレーニングを重ねて以前会った時とは体つきがすっかり変わっている者もいました。



事前のコースは3日間をかけて行われたため、我々は1月12日にドーハへ到着しました。翌日からのコースでは最初にノミネートされた全員が出席してウェルカムミーティングが行われ、事務局より種々連絡事項が伝えられました。会場のセキュリティは五輪レベルであるためADカードはとても重要であること、レフェリーの各会場への移動はシャトルバスを使うこと（ホテルにトランスポーテーションデスク設置）等です。その後、レフェリーとテクニカルデレゲート（TD）のみのコースが行われました。最初にPRC委員長のマンフレッド・プラウゼ氏（ドイツ）より挨拶があり、我々を含めて5ペアが初めての男子世界選手権参加であること、他の大会よりもボディーコンタクトが激しいため身体接触の見極めが重要であり、競技規則8の3をはっきりと示すこと、相手のシャツを掴むことや空中でのプッシングには必ず罰則を適用すること、フリースローの直後にはパッシブプレーのシグナルを出さないこと等が注意されました。大会は2月1日まででしたが、終盤にかけて試合数が減っていくため、1月27日で18ペア中8ペアが大会を終了し、最終日まで残るのは10ペアだけであることも確認されました。どのペアが残るかはパフォーマンスはもちろん、勝ち残ったチームなども考慮して決めるということで、TDも同様でした。試合のノミネートは毎朝のミーティングの最後に発表され、割り当てがない場合でも必ずいずれかの会場に行って試合を見るようにということでした。レフェリーのケアについても配慮されており、ホテル内にマッサージルームが一室用意され、決められた時間にセラピストが毎日常駐し、予約のうえで利用することができました。また、ビデオ判定システム（ビデオプルーフ）が今大会より導入されることについても説明がありました。オフィシャルテーブルの後ろに設置されたIHFオフィシャルの席にモニターが設置されており、テレビの映像と別モニターでゴールに設置されたカメラからの映像を見ることができるようになっています。ボールが完全にゴールに入っていたかどうか、終了間際のシュートが得点かどうかの判断や、レフェリーが明らかにレッドカードを適用する選手を間違えた場合などに、映像をその場で見直して正しい判断を手助けするというものでした。

今大会にはコーチサイドからPRCメンバーとして、男子ドイツ代表チームを長年率いたハイナー・ブランド氏が参加しており、事前のコースや毎日のミーティングの中で戦術的な視点から見た指摘や指導をしていただき、大変参考になりました。

コースや日々のミーティングの中で特に重点的に指導されたのはウィングとピボットの場面でした。ウィングの場面では、シュートの際での身体接触や、シューターに対して少しでも角度を狭くするために最後の1歩を大きく踏み出してあたかも先に位置取りをしたかのように見せる行為、ロングステップについても注意深く観察するよう指導されました。見る位置・角度によっては攻撃側の違反にも見えることがあるため、位置取りの工夫や身体接触の見極めをしっかりとしなければならないと感じました。

ピボットの場面では、OF・DFともに位置取りの際にユニフォームを掴む行為をさせないようにと強く指導されまし

た。場合によっては攻撃側の違反を判定することもありました。

大会運営の方へ目を向けると、カタール協会の財力、勢いを改めて感じさせられました。今大会のメイン会場となったルセイルスポーツホールはこの大会に合わせて建設された巨大な施設です。外観はもちろん、収容人数も約15,000人という素晴らしい会場でした。他の2会場も規模は劣るものの、世界選手権を行うのに充分な施設であったと思います。そのうちの1会場はカタールハンドボール協会所有のホールであり、収容人数は5,000人ですが、サブアリーナやプールなども完備されている素晴らしい施設でした。また、大会中に試合終了後のルセイルスポーツホールでアメリカの人気歌手であるファレル・ウィリアムスやグウェン・ステファニーのコンサートを開催したことにも大変驚きました。

各会場を取り仕切る会場責任者には女子世界選手権で運営に携わったセルビア人スタッフを招聘しており、かなり早い時期からカタールに滞在させて準備に携わっていたようです。我々の航空券の手配なども彼らが担当しており、大会期間中には彼らが各会場のフロアマネージャーとして色々な場面で活躍していました。

我々は今大会で予選リーグ3試合、順位決定戦で2試合の合計5試合を担当させていただきました。大会後半グループの10ペアに入ることが目標でしたが、残念ながら17位決定戦を担当した後、



大会途中で帰国することとなりました。しかし、世界を代表するレフェリーたちとともに、この男子世界選手権のレフェリーチームの一員として過ごした期間は大変有意義なものでした。求められるレベルも高いものでしたが、それに応えるポテンシャルを持った集団で、それぞれの自己管理や大会までの準備などもトップレベルでした。各レフェリーがそれぞれのしっかりした考えを持っており、求められた時にはルールのことのみならず色々な意見、主張をしていたのも印象的でした。レフェリーの待遇面についてレフェリーだけでミーティングを行う機会があり、その内容をプラウゼ氏に伝えて改善を求めるということもありました。また、今大会はドーハだけの1都市での開催ということで従来の複数都市開催時のように予選リーグでノミネートメンバーが各地に分かれることがなく、期間中全てのメンバーが同じホテルに滞在していたため、常に他のメンバーとコミュニケーションを図ることができたのも我々にとっては非常にありがたかったです。

今回の世界選手権では、世界最高レベルのコートに立つことができたという喜びと同時に、まだまだ力不足であることを感じました。世界はもちろん、アジアからも若いレフェリーが台頭してきており、気を抜けばすぐにでも追い抜かれてしまう状況であると感じています。我々が目標とする次のステップへ進むためにも更なる努力が必要であると感じています。国内で担当させていただく一試合一試合や、日々のトレーニングを大切にしながらさらに高いレベルを目指していきたいと思います。最後に、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻をお願いし、報告とさせていただきます。（文責・檜崎 潔）



連載 ハンドボール選手のための食育 3

勝つために何ができるか。今日からスタートできることは何か。ハンドボールに関わる全ての方々と一緒に考え、実行して行くための食育連載第３回目は、「水分補給の重要性」「サプリメント（栄養補助食品）は必要か？」をテーマにお伝えします。

１．水分補給の重要な役割

選手にとって最も大切な水分補給の役割は「体温調節」です。汗が皮膚の表面から蒸発することによって、過度に上昇した体熱を下げることができます。このことによって選手は運動能力を維持することができ、熱中症予防にもなります。

また、湿度が高いときには汗が蒸発しにくくなり、熱が体内にこもりやすくなるため､熱中症の危険が高まります。屋外だけでなく、屋内で熱中症になることもあります。それぞれの練習環境に応じて、熱中症対策を万全にお願いします。

２．水分摂取量の確認

暑い季節になり、気温の上昇に伴って運動時の発汗量も多くなっていきます。体内の水分が体重のおよそ3%減少すると､パフォーマンスが低下することが知られています。このことから、発汗による体重減少が2%を超えないように水分補給を心がけることが重要であるとわかります。

本連載では前回、体重測定を習慣づけることが大切だとお伝えしました。練習の前後に体重を測定することで、練習中の水分摂取量が適切であったかを確認することができます。

例：体重50kgの選手の場合、練習前後の体重差（減少量）は体重の2%である1kgを超えないこと。1kg以上の減少がみられたら、練習中の水分摂取量が不足していたと判断できる。

➡ 自分にあてはめて、体重測定 & 計算してみよう！
＊練習後の体重測定は、汗をかいた練習着を着替えるなど、練習前の測定と同じ条件にすること

３．水分補給の目安と注意点

「のどが渇いた」と思った時には既に遅く、脱水によってパフォーマンスが低下し始めています。水分が吸収されるまでには時間がかかるため、のどが渇く前から水分を摂るようにしましょう。また、一度に多量の水分を摂ると吸収が悪くなり胃がもたれるので、１回の量は200～250ml程度とし、こまめに補給することが望ましいといえます。

過去にあったような「運動中は水分補給してはいけない」という状況は見かけなくなりましたが、現在でも適切な水分補給ができていないというケースが見受けられます。水分補給は運動中だけではなく、まだ汗をかいていない運動前や、運動後のリカバリーのためにも、適切な種類の水分を適量ずつ摂取することが重要なのです。

中高生男女を対象にNTSで実施した水分補給に関するアンケート調査では、多くの選手が練習や試合時の水分補給に主にお茶や水を飲んでいると答えました。運動時間の長さや発汗量の多さによって、摂取する水分の種類を変えることも大切です。

運動時間が１時間程度で発汗量が少ないという場合には、お茶や水でもOKです。しかし、運動時間が長い・運動強度が強い・発汗量が多いという場合などは、水分・塩分・糖分が一緒に摂取できるスポーツドリンクを選択してください。



〈運動時の水分補給の目安〉
＊飲み物の温度は5～15℃を目安にしてください。

運動前：250～500mlを補給しておく
◇練習前に体重を測り、水分を補給します。
◇のどが渇いていなくても、運動前から水分補給が重要です。

運動中：15～20分おきに200～250ml
◇高温下や長時間の場合は、電解質（食塩0.1～0.2%）や糖質（4～8%）を補給してください。
◇こまめに水分を補給します。
→運動量が多いほど糖分を増やしてエネルギーを補給する

運動後：速やかに水分補給する
◇スポーツドリンクや果汁100%オレンジジュース、牛乳など。運動後30分以内に水分とともにたんぱく質や糖質を補給すると、体の回復を促すことができます。
※その後の食事で食欲が減退しないよう、ガブ飲みし過ぎ

に注意してください。

4．サプリメント（栄養補助食品）は必要か？

「プロテインをたくさん摂るほど筋肉がついて強くなれると思う」「ビタミン剤を飲んでいるから、野菜や果物はあまり食べなくても大丈夫だと思う」など、サプリメントの効能を過信して多用している選手をしばしば見かけます。

私は、サプリメントに頼る前にまず日々の食事の見直しをすべきだと考えています。食事ではどうしても十分な栄養補給が望めないという場合に、あくまで“補助”として活用するというのが基本の考え方です。

栄養素は、ハンドボール競技と同じようにチームプレーで働いています。サプリメントによって特定の栄養素を過剰摂取することは、他の栄養素とのバランスを崩し、マイナス作用を引き起こすことが考えられるため、十分な注意が必要なのです。

5．サプリメントが有用なケース

サプリメントの活用が有用であるのは、①好き嫌いがある場合や、合宿や遠征先の食環境が整っていないことで食事内容が偏っている時、②減量で食事制限をしている時、③体調不良や緊張感から食欲がない時、④試合前・中の栄養補給、⑤増量時や強化合宿期、⑥菜食主義者などです。そして、サプリメントを使用する場合には用量・用法を守るのはもちろんのこと、そのサプリメントが安全なもので、科学的根拠に基づいた効能であるかどうかを見極めることが大切です。

6．サプリメントとドーピング

ドーピング検査で違反をしてしまう選手の中には、まわりの人からすすめられたサプリメントを安易に摂取し、自分では気付かずに禁止物質を摂ってしまっていたという選手も多いのです。厳しいようですが、選手は口に入れるもの全てにおいて、自分自身で責任をもたなければなりません。

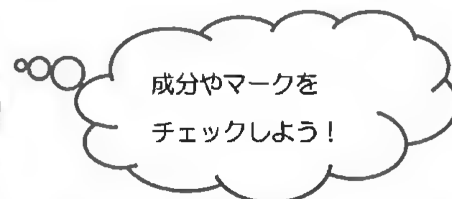
〈ドーピングに関する情報〉

選手は、「試合に出る＝ドーピング検査を受ける可能性がある」という認識をもつことが大切。ドーピングに関する情報は常に更新されているので、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）のホームページで情報収集することを習慣づけましょう。
（http://www.playtruejapan.org/）

〈JADA 認定商品マーク〉

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が、ドーピングの基準をクリアしていることを保証した認定商品に用いるマークです。商品を手にしたら、裏面などに記載されている成分内容やマークを確認するようにしましょう。





7．まとめ

運動時の給水で「水分補給」と「エネルギー源としての糖質の補給」のどちらを優先させるか等、ベストパフォーマンスを発揮するために必要な水分摂取のタイミングや内容をおさえ、日々の練習で実践してみましょう。

サプリメントの使用は、知識不足から起こる過剰摂取に十分注意します。特定の栄養素を過剰に摂取することで、体内での栄養のバランスを崩してしまわないよう、使用する際は専門家に相談するなどして慎重に判断してください。

食事の基本形がそろっているか確認してみましょう

- ●主食：ご飯、パン、麺類など
- ●主菜：肉、魚、卵、大豆製品などを使った料理
- ●副菜：野菜、海藻、きのこなどを使った料理（2 品）
- ●乳製品：牛乳、ヨーグルト、チーズなど
- ●果物：季節のフルーツなど



●水分補給＆サプリメントのポイント●

のどの渇きを感じる前に、こまめに水分補給する。長時間運動するときや発汗量が多いときはスポーツドリンクを飲もう！

サプリメントが本当に必要か？まずは自分の食生活の見直しを。使用する場合は、成分について専門家に相談しましょう！

【報告】JOCスポーツ指導者海外研修員（3）

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員　高橋 豊樹

2013年8月から日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業の研修員として、コーチのキャリアをデンマークで積ませて頂いております。この場をお借りして現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。前回に引き続きデンマークハンドボール協会の方針を中心に現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。今回はタレントトレーニングにおけるリクルート戦略について。

タレントトレーニングの構造

DHFタレントトレーニングは、2つのエリア（東西）に分かれて実施されます。東は主にシェラン島のHRØとヒュン島のFHF、西は主にユトゥラン半島のJHFの各協会を中心に構成されています。東西各グループでは、エリアマネージャー1人、タレントコーチ3人、ゴールキーパーコーチ1人と理学療法士1人の計12人が専任のスタッフとして任命されています。彼らがタレント育成の中心として選手たちの個々のスキルアップのための指導にあたります。両方のエリアは、これらのスタッフと別に、急遽出席できなくなり代理が必要になった場合の為に、タレント育成に関われる力量をもったコーチ（プレーヤーのスキルを改善し、次のレベルへ連れて行くことのできるコーチ）が、DHFの仕事とは別にクラブなどのチームを担当しながらも、代理コーチとして登録されています。これらのポジションはすべて、公募によって募集されて採用されます。その新人募集は、基本的に2年単位でDHFと契約します。

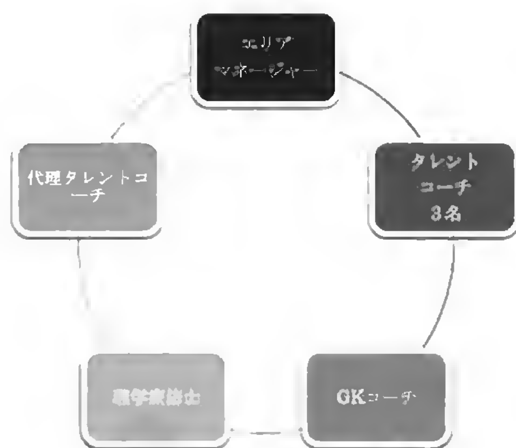


図1　コーチやタレントグループの関係者

表1　タレントトレーニングスタッフ（女子西地区を例に）

タレントトレーニング責任者	Heine Eriksen（U20女子代表監督）
エリアマネージャー	Bo Rudgaard（女子代表アナリスト）
タレントコーチ	Pernille Kiaer
タレントコーチ	Lars Høgh Jensen
タレントコーチ	Ole Jensen
ゴールキーパーコーチ	Gitte Sunesen
理学療法士	Jens Bo Jørgensen

責任

タレントトレーニングでは、男女のジュニア代表監督もしくはユース代表監督がDHFタレントトレーニングの責任者を担当します。そしてタレントトレーニングの責任者（現時点ではM21/20代表監督クラウスハンセン、W20/19代表監督ハイネエリクセン）は日々のマネージメントにおける責任者を担当しています。タレントの募集はすべてDHFの責任ですが、実際のトレーニングセッションにおける内容の実際の計画は、The Danish Wayのテーマや演習に基づいて、エリアマネージャーによって計画され実行されます。DHFタレントコーチと、最終的にタレントトレーニングの責任者がタレントトレーニングに参加するタレントのセレクションや調整を担当します。また、Brøndbyにある DHF本社にいるナショナルチームのコーディネーターは、タレントトレーニング会議の計画および実行するエリアマネージャーの実務を援助します。このように、現代表監督が、ユース・ジュニアの育成に関わることができるなど、ユース・ジュニアのナショナルチームと、タレント育成のスタッフが常に連携し、The Danish Wayの考えのもと、一貫した、タレントの選抜・育成を行うことができる仕組みが整えられています。

タレントトレーニングのコース

タレントトレーニングは年間を通じて固定のコースを持っています。毎年、東西の2つのエリアでそれぞれ、年に4回、週末を利用してタレントが集まりトレーニングが行われます。金曜の午後から日曜の午後までという計5部のトレーニングの構成となっています。それに加えて、毎年6月あるいは7月上旬の間に、5日間のサマーキャンプが行われます。この集中的なトレーニングキャンプは東西各地区からナショナルレベルのタレント約60人、すべてのタレントコーチ、U18・19、U20・21のナショナルスタッフたちが集まります。週末を利用した各地区でのタレントトレーニングは、2地区で同時に行われ、それぞれのグループのエリアマネージャーが内容を計画し、もう一方のエリアマネージャーと、ジュニア・ユースナショナルチームのコーチ陣に、その内容が送られ、タレントトレーニング全体の調整が図られます。このコミュニケーションは二グループ間でトレーニングの焦点であるべき要素の全体的な調整を確実にするためです。同時に、エリアマネージャーや代表チームのコーチ陣との間で進行するコミュニケーションは毎年恒例のサマーキャンプを計画する際に優先されるべきトレーニングの焦点を決定するためのより強固な基盤を確保することに繋がります。

そして、サマーキャンプは、多くの場合個々のタレントが翌年、ユース代表にセレクションされるか、DHFのタレントトレーニングを継続するか、サマーキャンプ後にタレントトレーニングを離脱させるかどうかの議論の出発点でもあります。さらにサマーキャンプによってもたらされる効果は、M18/19ナショナルチームのコーチに、現在のM18/19チームと違う年齢層である次世代の代表と現在の代表を比較する機会を与えてくれます。先に述べたように、M18/19代表チームのコーチはタレントトレーニングに参加したり、または現在のM18/19代表チームの選手たちのクラブを訪問することができます。しかし、サマーキャンプはM18/19のコーチに次世代の代表チームの年齢層のタレントの現在の状況を集中的に洞察する時間を提供することになります。

サマーキャンプの最初の２日間は地域、タレントセンター、地区のコーチにとってとても役立つ内容となっています。このコースの内容は、主にハンドボールの学術的（技術的）なものであり、主に DHF のコーチがサマーキャンプで注目している特定の能力及びスキルの調査や見直し及び議論の機会にもなります。また、地区、タレントセンターと地方のコーチは、過去一年を通して DHF のタレントコーチとの連携協力およびそれを評価することも、もちろんのこのサマーキャンプの意図であり、この時間によって来年の協力のための素描が作られることに繋がります。サマーキャンプでのトレーニングは、各エリアで行われる週末のタレントトレーニングの内容と実質的に異なりません。どちらの場合も、焦点はこの大要でのべられていた練習に主として基づいて、タレントの個々の力量（能力）やスキルの開発に焦点が当てられます。しかし、サマーキャンプの５日間は、私たちが考えるよりもはるかに大きい範囲までタレントたちに理論的な要素を持つハンドボールのトレーニングを補完することを可能にします。例えば、食事と栄養に関する知識、フィジカルトレーニング、トレーニングの計画についての教育、メディア対応、スポーツ心理学などについての知識は、タレントが長期的にナショナルプレーヤーへと発展し活躍する場合に必要となる「エリート人生」をサポートするのに役立つトピックを追加して提供することができます。

タレントトレーニングから選手を離脱させる

タレントトレーニングからの選手の離脱と、タレントトレーニングがもたらす効果について。DHF のタレントトレーニングへの参加は、M18 の一年目のシーズンの終わり（17 歳）に実施されるサマーキャンプで１区切りとなります。ただし、タレントの参加が早期に終了する場合もあり、DHF はその場合次のようなケースを挙げています。

- DHF のコーチ陣が、タレントの個人的なポテンシャルやモチベーションがタレントトレーニングの継続に十分でないと判断した場合
- M18/19 コーチがそのタレントがタレントトレーニングのようなレベルの高いトレーニングと同じ程度に高いレベルでのクラブのトレーニングに参加していて、十分に彼のクラブで刺激されていると判断した場合
- ナショナルチームに選ばれている選手で、もはやタレントトレーニングへの参加が十分だと M18/19 コーチが判断した場合。
  →この場合、若い世代からより多くのタレントをタレントトレーニングに参加させるための席を空けるため。
- タレントがそれ以上タレントトレーニングの一部であることを望んでおらず、タレントがタレントトレーニングからの離脱を望んだ場合。

最後の理由を除いて、通常、タレントはタレントトレーニングの継続を希望するため、担当のエリアマネージャーと離脱するタレントとの最終的なミーティングの場がもたれ、そこで、タレントトレーニングにおけるそのタレントの進歩状況の評価がされます。毎回のタレントトレーニングで、タレントとエリアマネージャーまたはタレントコーチたちとのミーティングの場が単独、またはグループのいずれかで持つ機会があり、ここでは主にタレントのハンドボールにおける課題などが議論され、タレントがこの議論からいくつかのキーワードを吸収し、次のトレーニングまでに各クラブでどういった取り組みをするべきかという内容を得て持ち帰ることで、クラブとの対話の機会も増え、タレントトレーニングに参加することが、選手にとってもクラブにとっても有益なものにならなければいけないと強調しています。

M18/19 代表チームへのリンク

タレントトレーニングからナショナルチームへどのようにつながり展開していくかについて。M18/19 代表チームのための選手の募集はタレントトレーニングへの参加を介して行われます。これは、M18 代表チームの選手になるということは同時にタレントトレーニングの一部であるということが言えます。したがって DHF のタレントトレーニングを経験せずに、直接 U18･19 ナショナルチームのメンバーになることはなく、もしタレントがクラブの試合やトレーニングを通じて M18 代表チームに直接的にセレクションされた場合、選手は自動的にタレントトレーニングに含まれることになります。

M18/19 と M20/21 代表チームでの作業

以前に述べたように、DHF が M18/19 でする仕事、また M20/21 ナショナルチームで行うメニューの多くは Danish Way の哲学のもと行われます。さらに加えて、DHF のタレントトレーニングシステムは M18 ナショナルチームのための中心的な選手募集のチャンネルであることを強調しておきます。さらに言及しておきたいのは、タレントトレーニングで行われるメニューの多くは M18/19、M20/21 ナショナルチームでのトレーニングでも、選手の個々の技術および能力をさらに促進するためにそこでも使用されることが多いことを強調しておきたいと思います。このことによって、ナショナルチームにセレクションされる選手は、個人のベースとして、The Danish Way の哲学のもと、同じトレーニングを受けた状態でナショナルチームのトレーニングに集まり、その上でチームとしての戦術トレーニングや、チームビルディングを行っていくことが可能になります。

タレントトレーニングのハンドボール学問コンテンツ

DHF のタレントトレーニングシステムでは選手たちの個々の力量やスキルを開発することに焦点があてられます。そのため６対６のような複雑な集団トレーニングはタレントトレーニングでは実施されていません。その種のトレーニングは特に M20/21 ナショナルチームでの責任となります。代わりに、タレントトレーニングでは選手の技術が多くの反復トレーニングを通じて改善されるより少人数のグループの中で DHF タレントコーチからの修正のもと、それに対応し、実行するような練習に基づきます。もう一度強調しておきたいことは DHF のタレントトレーニングシステムでは、選手の個人的なスキルと能力の発展に焦点が当てられています。このようにタレントトレーニングでのトレーニングでの目的は、防御、速攻および攻撃のそれぞれの局面でのタレントの特定の個々の能力、技術を教育し、改善することです。したがって、タレントトレーニングのハンドボール学修内容の基本的な目的は、タレントにハンドボールのゲームのそれぞれの局面で必要な技術の一般教育（理論的なスキル）を与えることです。そのためタレントトレーニングの主要な目的は、短期的なジュニアナショナルチームにあらわされる特定の技術的、戦術的な目的を満たせませんが、その代わりすべてのタレントがタレントトレーニングを通り抜けることで、長いスパンで育成を捉えた場合、最終的に、すべてのタレントが、必要な育成・トレーニングを経験し、このように長期的な教育を可能としているといえます。

第10回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2015年3月26日(土)～29日(火)
会場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男子】

▼1回戦

豊中第一(大阪)	25	(12－6、13－4)	10	尾花沢(山形)
ヴァルト岐阜(岐阜)	25	(13－11、12－7)	18	更埴西(長野)
氷見西條(富山)	39	(16－8、23－15)	23	手代木(茨城)
光成(北海道)	36	(19－4、17－9)	13	呉中央(広島)
久米(愛媛)	23	(13－8、10－11)	19	成田(宮城)
市川第一(千葉)	24	(13－6、11－6)	12	八幡東(滋賀)
井吹台(兵庫)	33	(14－21、19－10)	31	塩山(山梨)
呉羽(記念枠)	28	(15－11、13－9)	20	湯沢北(秋田)
松橋(熊本)	26	(14－9、12－12)	21	平針(愛知)
平田(山口)	21	(10－12、11－7)	19	東久留米西(東京)
郡山第一(福島)	31	(15－14、16－11)	25	貴志川(和歌山)
明倫(福井)	16	(7－6、9－8)	14	西中原(神奈川)
氷見北部(開催地)	30	(16－11、14－16)	27	大住(京都)
HC江津(島根)	28	(12－9、16－4)	13	舞鶴(鹿児島)
総社西(岡山)	20	(10－9、10－4)	13	下仁田(群馬)
花畑(福岡)	18	(8－7、10－6)	13	LHC静岡(静岡)

▼2回戦

豊中第一(大阪)	28	(14－8、14－9)	17	野木(栃木)
ヴァルト岐阜(岐阜)	26	(12－9、14－11)	20	滝尾(大分)
氷見西條(富山)	44	(24－13、20－19)	32	介良(高知)
光成(北海道)	25	(10－8、15－10)	18	小林(宮崎)
久米(愛媛)	21	(10－6、11－6)	12	境港第二(鳥取)
大野(長崎)	32	(15－10、17－13)	23	市川第一(千葉)
神森(沖縄)	40	(17－14、13－16) (6－1 延長 4－5)	36	井吹台(兵庫)
菰野(三重)	25	(13－6、12－16)	22	呉羽(記念枠)
板津(石川)	26	(11－9、15－14)	23	松橋(熊本)
平田(山口)	33	(24－3、9－16)	19	上(奈良)
郡山第一(福島)	36	(19－8、17－11)	19	神崎(佐賀)
明倫(福井)	28	(12－7、16－7)	14	八万(徳島)
氷見北部(開催地)	30	(15－10、15－14)	24	戸塚(埼玉)
矢巾(岩手)	30	(13－10、17－8)	18	HC江津(島根)
香川第一(香川)	29	(14－11、15－9)	20	総社西(岡山)
花畑(福岡)	37	(22－5、15－10)	15	三本木附属(青森)

▼3回戦

豊中第一(大阪)	25	(12－9、13－10)	19	ヴァルト岐阜(岐阜)
氷見西條(富山)	42	(19－9、23－16)	25	光成(北海道)
大野(長崎)	19	(11－5、8－10)	15	久米(愛媛)
菰野(三重)	29	(11－15、18－13)	28	神森(沖縄)
平田(山口)	27	(7－11、16－12) (1－2 延長 3－1)	26	板津(石川)
郡山第一(福島)	27	(15－12、12－14)	26	明倫(福井)
氷見北部(開催地)	34	(15－6、19－14)	20	矢巾(岩手)
香川第一(香川)	23	(11－6、12－10)	16	花畑(福岡)

▼準々決勝

氷見西條(富山)	37	(17 7、20－14)	21	豊中第一(大阪)
菰野(三重)	21	(11－13、10－5)	18	大野(長崎)
平田(山口)	27	(14 5、13－11)	16	郡山第一(福島)
氷見北部(開催地)	22	(10－15、12－6)	21	香川第一(香川)

▼準決勝

氷見西條(富山)	31	(12－9、19－12)	21	菰野(三重)
氷見北部(開催地)	26	(14－8、12－14)	22	平田(山口)

▼決勝

氷見西條(富山)	33	(16 6、17－18)	24	氷見北部(開催地)

【女子】

▼1回戦

大住(京都)	21	(11－6、10－9)	15	岩国(山口)
高南(大阪)	16	(7－5、9－5)	10	大野(長崎)
大原(埼玉)	20	(9－7、11－5)	12	小杉(記念枠)
粕屋(福岡)	27	(14－4、13－0)	4	土佐(高知)
東根第一(山形)	23	(11－8、12－5)	13	埴生(長野)
氷見西條(開催地)	22	(8－9、14－11)	20	滝ノ水(愛知)
岩崎(神奈川)	16	(6－4、10－9)	13	滝尾(大分)
塩山(山梨)	34	(15－4、19－4)	8	城東(徳島)
芦城(石川)	15	(6 6、4－4) (2－0 延長 3－2)	12	笹川・南(三重)
明倫(福井)	26	(13－7、13－7)	14	松橋(熊本)
上(奈良)	23	(10－6、13－10)	16	富岡南(群馬)
氷見十三(富山)	27	(15－5、12－5)	10	荒川(和歌山)
けやき台(茨城)	27	(14－9、13－8)	17	今治東(愛媛)
東久留米西(東京)	31	(16－9、15－12)	21	魚住東(兵庫)

▼2回戦

港川(沖縄)	19	(11－7、8－9)	16	大住(京都)
若松(千葉)	28	(12－5、16－4)	9	静岡東(静岡)
香川第一(香川)	13	(8－1、5－6)	7	高南(大阪)
大原(埼玉)	21	(12－8、9－7)	15	石川(福島)
粕屋(福岡)	24	(14－0、10－6)	6	立命館守山(滋賀)
東根第一(山形)	24	(10－4、14－12)	16	石橋(栃木)
氷見西條(開催地)	26	(15－9、11－7)	16	凌雲・光成(北海道)
岩崎(神奈川)	22	(14－5、8－2)	7	境港第一(鳥取)
隼人(鹿児島)	17	(10－5、7－9)	14	塩山(山梨)
芦城(石川)	16	(5－5、11－5)	10	六郷(宮城)
明倫(福井)	23	(9－3、14－10)	13	倉敷東(岡山)

上　　(奈良) 27 (10－11、17－5) 16 矢巾北 (岩手)
氷見十三 (富山) 29 (16－4、13－9) 13 甲田 (広島)
けやき台 (茨城) 30 (14－2、16－6) 8 神崎 (佐賀)
三松 (宮崎) 23 (10－6、13－7) 13 松倉 (岐阜)
東久留米西 (東京) 33 (17－5、16－6) 11 羽後 (秋田)

▼3回戦

港川 (沖縄) 21 (11－7、10－11) 18 若松 (千葉)
香川第一 (香川) 15 (9－8、6－6) 14 大原 (埼玉)
粕屋 (福岡) 22 (12－10、10－11) 21 東根第一 (山形)
氷見西條 (開催地) 24 (13－9、11－7) 16 岩崎 (神奈川)
隼人 (鹿児島) 17 (7－6、10－7) 13 芦城 (石川)
明倫 (福井) 34 (16－6、18－3) 9 上 (奈良)
氷見十三 (富山) 19 (8－8、11－7) 15 けやき台 (茨城)
東久留米西 (東京) 35 (19－7、16－8) 15 三松 (宮崎)

▼準々決勝

港川 (沖縄) 20 (10－7、10－7) 14 香川第一 (香川)
氷見西條 (開催地) 28 (19－10、9－14) 24 粕屋 (福岡)
明倫 (福井) 31 (17－6、14－7) 13 隼人 (鹿児島)
東久留米西 (東京) 21 (12－8、9－10) 18 氷見十三 (富山)

▼準決勝

氷見西條 (開催地) 26 (11－14、10－7) 25 港川 (沖縄)
(3－3 延長 2－1)
明倫 (福井) 29 (13－12、16－14) 26 東久留米西 (東京)

▼決勝

明倫 (福井) 32 (16－7、16－13) 20 氷見西條 (開催地)

スコアールーム②

高松宮記念杯第5回全日本社会人ハンドボール選手権大会

開催期日：2015年5月20日(水)～24日(日)
会　場：富山県・富山市総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

トヨタ紡織九州 34 (15－13、12－14) 31 HONDA
(3－4 延長 4－0)
大同特殊鋼 41 (24－10、17－9) 19 HC岐阜
トヨタ自動車東日本 28 (11－13、17－8) 21 北陸電力
湧永製薬 20 (11－7、9－11) 18 HC和歌山

▼9－12位決定戦

HONDA 29 (12－12、17－10) 22 HC岐阜
北陸電力 27 (13－14、14－11) 25 HC和歌山

▼11－12位決定戦

HC和歌山 25 (14－9、11－13) 22 HC岐阜

▼9－10位決定戦

HONDA 27 (12－14、15－9) 23 北陸電力

▼2回戦

トヨタ車体 32 (21－7、11－16) 23 トヨタ紡織九州
大同特殊鋼 23 (10－10、13－9) 19 豊田合成
トヨタ自動車東日本 22 (8－8、14－10) 18 琉球コラソン
大崎電気 23 (12－8、11－14) 22 湧永製薬

▼5－8位決定戦

トヨタ紡織九州 31 (15－14、16－12) 26 豊田合成
湧永製薬 23 (9－10、14－12) 22 琉球コラソン

▼7－8位決定戦

豊田合成 34 (19－15、15－11) 26 琉球コラソン

▼5－6位決定戦

湧永製薬 30 (16－11、14－12) 23 トヨタ紡織九州

▼決勝リーグ

大同特殊鋼 27 (16－15、11－11) 26 トヨタ車体
大同特殊鋼 28 (13－11、15－8) 19 トヨタ自動車東日本
大崎電気 28 (15－9、13－8) 17 大同特殊鋼
大崎電気 26 (13－10、13－11) 21 トヨタ自動車東日本
トヨタ車体 26 (14－12、12－11) 23 大崎電気
トヨタ車体 34 (13－9、21－10) 19 トヨタ自動車東日本

【最終順位】

優勝：大崎電気、2位：トヨタ車体、3位：大同特殊鋼、4位：トヨタ自動車東日本、5位：湧永製薬、6位：トヨタ紡織九州、7位：豊田合成、8位：琉球コラソン、9位：HONDA、10位：北陸電力、11位：HC和歌山、12位：HC岐阜

【女子】

▼予選リーグ

北國銀行 31 (15－7、16－7) 14 三重バイオレットアイリス
北國銀行 38 (19－11、19－8) 19 ソニーセミコンダクタ
三重バイオレットアイリス 33 (17－7、16－16) 23 ソニーセミコンダクタ
オムロン 28 (13－6、15－10) 16 香川銀行T・H
オムロン 15 (8－8、7－7) 15 広島メイプルレッズ
香川銀行T・H 22 (9－11、13－10) 21 広島メイプルレッズ

▼準決勝

北國銀行 27 (12－9、15－9) 18 香川銀行T・H
オムロン 29 (17－7、12－8) 15 三重バイオレットアイリス

▼3位決定戦

三重バイオレットアイリス 22 (11－10、11－10) 20 香川銀行T・H

▼決勝

北國銀行 25 (13－7、12－11) 18 オムロン

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【北海道】加藤慶仁【岩手】中舘　豊、高橋元一【茨城】相澤千代子【埼玉】吉原　伯、豊田　武、豊田久恵、山口　亨、山口育子、根城　泰【千葉】舎利弗芳子【東京】緑川正博、塩川安賢、中澤重夫、兼子　真、菊地知男、梶間珠美【神奈川】近久紀人、柳村友博、吉澤和美、斉藤航大、久保公雄、久保靖子、佐分正典【富山】金原　至、立野未央【石川】酒谷信彦【愛知】西川勤也、田中怜菜、浅野克彦、川添浩美、久村修三、山本幸代【三重】加藤　公【大阪】草ノ井文子、大西和雄【岡山】村田憲俊【広島】山下明子、神田雅裕、有田　忍

【7月・8月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
7月11日(土)　臨時理事会

【大会】……………………………………………………………
7月3日(金)～14日(火)
第28回ユニバーシアード競技大会……(韓国・光州市)
7月11日(土)～12日(日)
第35回全国クラブ選手権大会・西地区………(広島市)
7月11日(土)～12日(日)
第35回全国クラブ選手権大会・中地区(柏崎市、上越市)
7月11日(土)～12日(日)
第35回全国クラブ選手権大会・東地区………(甲府市)
7月20日(月)～8月1日(土)
第20回男子ジュニア世界選手権
…………　(ブラジル・ウベルランジア、ウベラバ)
7月31日(金)～8月2日(日)
第23回全日本マスターズ大会………………　(豊田市)
7月31日(金)～8月1日(土)
第28回全国小学生大会……………………　(京田辺市)
8月2日(日)～7日(金)
高松宮記念杯第66回全日本高校選手権大会…　(堺市)
8月4日(火)～5日(水)
第18回ハンドボール研究集会……………　(佐世保市)
8月6日(木)～13日(木)
第13回女子ジュニアアジア選手権
………………………　(カザフスタン・アルマトイ)
8月7日(金)～11日(火)
第7回日韓小学生親善交流会（受入)…………　(岩国市)
8月7日(金)～20日(木)
第6回男子ユース世界選手権 …………………　(ロシア)
8月上旬～9月上旬
NTSブロックトレーニング ……………　(各ブロック)
8月9日(日)～12日(水)
第20回ジャパンオープントーナメント・
岩手国体リハーサル大会………………………　(花巻市)
8月19日(水)～21日(金)
第42回全国高等専門学校選手権大会　(八代市、宇城市)
8月21日(金)～24日(月)
第44回全国中学校大会…………………………　(花巻市)
8月22日(土)～23日(日)
第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会(南知多町)
8月23日(日)～29日(土)
第23回日韓中ジュニア交流競技会(韓国･済州特別自治道)
8月26(水)～31日(月)
日韓スポーツ交流（派遣／男子）………………　(韓国)
8月27(木)～9月5日(土)
第6回女子ユースアジア選手権（インド・ニューデリー）

HAND BALL CONTENTS Jun.Jul.


代表取締役　青木 理恵

あなたの未来を
トータルサポート

私達、株式会社ユリカコーポレーションは、
女子ハンドボールを応援しています!!

今や、ポートフォリオとしての不動産投資は常識！自社ブランド《～ユリカロゼシリーズ～》は、皆様のライフプランをサポート！未来への不安を希望や楽しみに変えるお手伝いをしております。

〒101-0041
東京都千代田区神田須田町2-6-2-1202
TEL:03-3525-8986　FAX:03-5295-8188
http://yurika-co.jp/

YURIKA ROSE




株式会社ユリカコーポレーション

（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第五五二号
平成二十七年六月二十六日印刷
平成二十七年七月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表　〇三－三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九二
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円